SOTEC

WinBook WLシリーズ
ユーザーズガイド

（電源を入れる・切るなど基本的な操作から、各機能の使いかたを説明しています。）



- ●セットアップをはじめよう
- ●ご使用になる前に
- ●周辺機器を使いこなす
- ●付　録

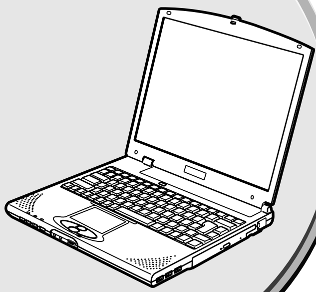
付属マニュアルの読みかた

まず、これを読もう！

⇒ユーザーズガイド



セットアップ方法から、本製品を使用するための基本的な操作方法を説明しています。
また、本機に接続できるさまざまな周辺機器の説明をしています。



サポートに関しては

⇒サポートのご案内

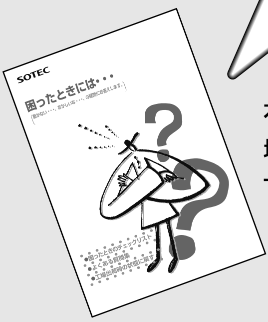


カスタマーID登録・保証書のお申込書の方法や、修理依頼の方法などサポート内容について説明しています。



おかしいな？思ったら

⇒困ったときには・・・

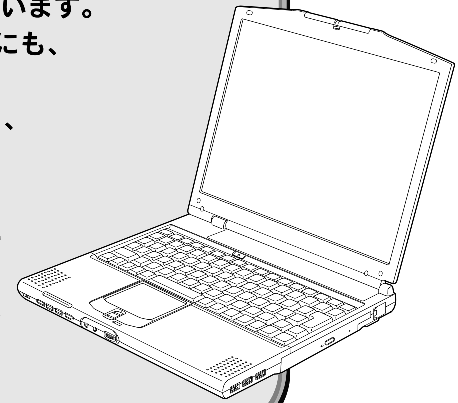


本機をご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、トラブルの解決方法と、トラブルを予防する方法について説明しています。



はじめに

このたびは、ソーテックWinBook WLシリーズをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
このユーザーズガイドでは、WinBook WLシリーズのご使用にあたって注意していただきたいことや、基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を、4つのセクションに分けて説明しています。
WinBook WLシリーズを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。
読み終わった後は、いつでもご参照いただけるよう、大切に保管してください。



また、本製品をご使用になる前に、本書の2ページにある「本製品を正しく安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。本製品を正しく使用するために、知っておいていただきたい事項が記載されています。

チェック

はじめてWindowsを起動したときは、[スタート]ボタンを選択して表示される「本製品をご購入のお客様へ」を必ずお読みください。
この中には、WinBook WLシリーズを使用される上で重要な情報が記述されています。
特に、Windowsを再インストールする場合は、「本製品をご購入のお客様へ」に書かれているとおりにドライバソフトなどのインストールを行わないと、WinBook WLシリーズの性能を充分に発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

注　意

本製品は、人命に関わる設備や機器(医療機器、原子力設備に関連する機器、航空宇宙機器、運輸設備に関連する機器など)や、高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの使用や組み込みを目的として設計されていません。
これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用された場合、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。

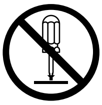
本製品を正しく安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、本製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

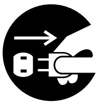
⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（じゅうしょう）(※1)を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害（しょうがい）(※2)を負う可能性が想定される内容および、物的損害（ぶってきそんがい）(※3)のみの発生が想定される内容を示しています。

※1　重傷とは、入院や長期の通院を要する恐れのある怪我などを指します。
※2　傷害とは、入院や長期の通院を要しない怪我などを指します。
※3　物的損害とは、本機の損害および、家屋・家財・ペットなどに関わる二次的な損害を指します。



⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。



● 記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜いてください」という意味です。

⚠ 警告



水場使用禁止

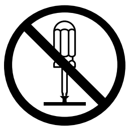
●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

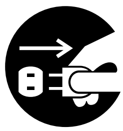


●電源が100～240Vの範囲内であることを確認して使用してください。
100～240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。



分解禁止

●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。
火災や感電の原因となります。
また、無償修理の対象外となります。



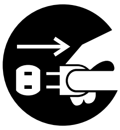
電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。
そのままご使用になると火災・感電の原因となります。



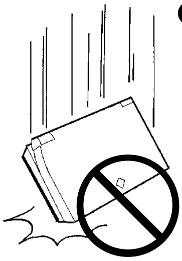
●長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。
（発熱することは異常ではありません。）

⚠ 注意



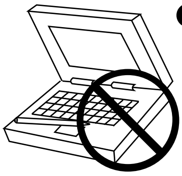
電源プラグを抜く

●電源プラグを抜くときはケーブルを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
故障の原因となります。



振動・衝撃を与えない

●振動や衝撃の加わる場所には設置しないでください。
また、重い物をのせないでください。
故障による火災・感電の原因となります。

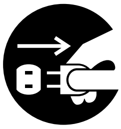


異物を挟んで閉じない

●ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうかご確認ください。異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

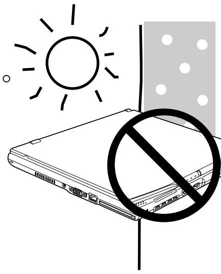
●本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。

●電源ケーブルの上にものをのせないでください。
電源ケーブルが痛むと漏電・火災の原因となります。



電源プラグを抜く

●使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電・火災の原因となります。



●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐食性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10～35℃)/使用周囲湿度(20～80%ただし結露しないこと)を超える範囲では使用・保存しないでください。故障の原因となります。

●タッチパッドの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。
故障の原因となります。

●タッチパッドは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

●雷が近いときは、すみやかに電源をOFFにし、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
また、モジュラーケーブルやLANケーブルなど、接続されているケーブル類も抜いてください。
故障する可能性があります。

⚠ 警告

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。
また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。発熱・発火・破裂の原因になります。

火の中に
入れない

●バッテリを火の中に入れないでください。破裂の恐れがあります。

衝撃を
与えない

●バッテリに強い衝撃を与えたりしないでください。故障の原因となります。

●バッテリから液が漏れて、液が目に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

●バッテリ充電時に、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。

●バッテリが漏液したり、異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂の恐れがあります。

分解禁止

●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれています。分解・改造などしないでください。保護装置が壊れ、発熱・発火・破裂の恐れがあります。

⚠ 注意

●バッテリから漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗ってください。

加熱・分解・
ショートしない

●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(＋と－の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

⚠ 注意

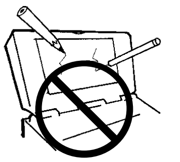
●バッテリを、水や海水などにつけて、濡らさないでください。バッテリの破損や性能・寿命を低下させる原因となります。

●バッテリを使う前に、サビ・異臭・発熱・その他異常と思われるときは、使用しないでください。SOTECテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●バッテリを小児が使う場合、保護者が取扱説明書の内容を教えてください。また、使用途中でも、取扱説明書のとおり使用しているかご確認ください。

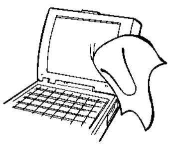
●バッテリは乳幼児の手の届かない所へ保管してください。

⚠ 取り扱い上の注意

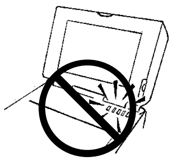


たたいたり
引っかいたりしない

●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。
破損する恐れがあります。



●本体外装の汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。



動作中に
移動させない

●ハードディスクが動作中のときは移動させないでください。
故障の原因となります。

●本製品の付属物は大切に保存してください。

●ハードディスクに保存したデータなどは定期的にバックアップをお取りください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10～35℃)の環境に放置した後、お使いください。

法規について

レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802)クラス1適合の光ディスクドライブが搭載されています。

PCグリーンラベル制度について

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)により策定された「PCグリーンラベル制度」に合格致しました。

「PCグリーンラベル制度」とは、お客様が環境に配慮したパソコンをご購入になる際、商品選択を容易にするために、基準をクリアしたパソコンに「PCグリーンラベルロゴマーク」を表示する制度で、以下の3つのコンセプトから構成されています。

・環境(含3R※1)に配慮した設計・製造がなされている。

・使用済み後も、引取り・リユース／リサイクル・適正処理がなされている

・環境に関する適切な情報開示がなされている

※1:3R=リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)

グリーン購入ネットワーク(GPN)について

本製品はグリーン購入ネットワーク(GPN)に適合しています。

輸出および海外でのご使用に関する注意事項

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要になる場合があります。

必要な許可を取得せずに本製品を輸出すると、同法により罰せられます。

輸出の許可の要否については、ご購入頂いた販売店、または当社営業拠点にお問い合わせください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報処理装置です。

この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しく取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとした、オフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ、複写機、スキャナ、複合機のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

瞬時電圧低下について

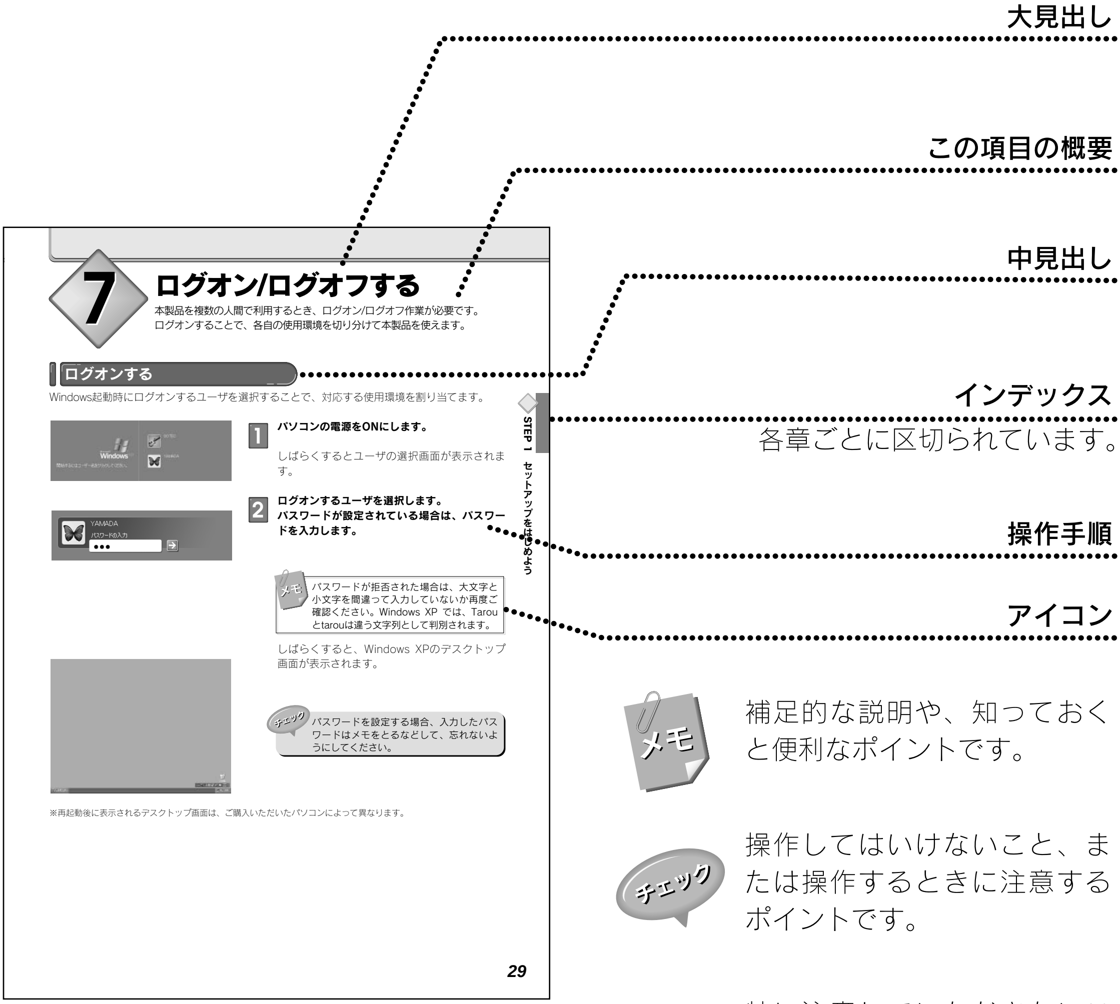
本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
(社団法人電子情報技術産業協会(旧JEIDA)のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

マニュアルの読みかた

ページの構成



このページは、構成の説明用に作成したもので、実際のページとは異なります。

メモ　補足的な説明や、知っておくと便利なポイントです。

チェック　操作してはいけないこと、または操作するときに注意するポイントです。

注 意　特に注意していただきたいことです。説明を守らないと、本機の破損や怪我をする可能性があります。

参照　参照していただきたい別冊のマニュアルやオンラインヘルプを紹介しています。

☞参照ページ

その単語の詳細が別ページに紹介、または説明されています。本文とあわせてご参照ください。

章の構成

このユーザーズガイドは、お客様のレベルや使いかたに応じて、大きく4つのセクションに分けて説明しています。

本製品の接続方法と、セットアップから電源のON、OFFまでを説明しています。

セットアップをはじめよう

タッチパッドやCD-ROMドライブなど、WinBookが標準で持っている機能について、基本的な使いかたおよび注意事項を説明しています。

ご使用になる前に

AV機器やUSB機器など、WinBookに接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。

周辺機器を使いこなす

WinBookの内部プログラム(BIOS)の操作方法と、その機能について説明しています。また、索引を掲載しています。必要に応じてご参照ください。

付　録

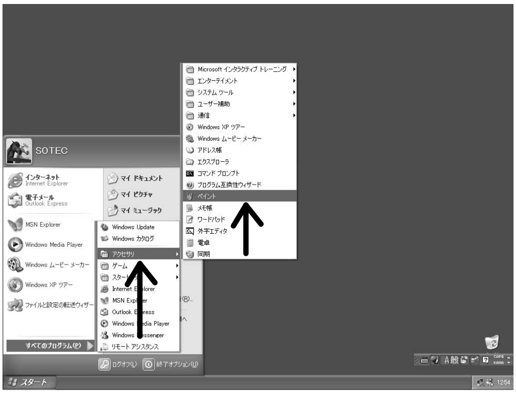
WinBookを使うのは初めて、という方は、「STEP1 セットアップをはじめよう」をまずお読みください。接続方法からセットアップ、本機の電源の入れかたなど、基本的な使いかたを説明しています。また、タッチパッドやCD-ROMドライブなど、WinBookに標準で付属している機能を使用する場合は、「STEP2 ご使用になる前に」をお読みください。

USB対応のスキャナを使いたい、メモリを増設したいなど、本製品をより有効に活用したいときは、「STEP3 周辺機器を使いこなす」をお読みください。

使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、別冊の「困ったときには…」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなるでしょう。

マニュアルの表記について

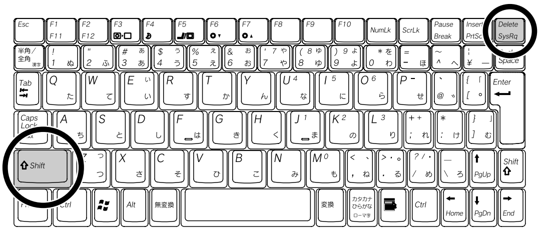
操作の表記ルール



次々とメニューを選択していく動作を本書では「→」を使って省略している箇所があります。
例えば、左画面のように、スタートボタンから「ペイント」のプログラムまでを選択する動作を、

[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[ペイント]

と表記しています。



※製品によりキーボードの形状は異なることがあります。

何かのキーを押しながら、他のキーを押す動作を本書では「+」を使って省略しています。
例えば、左図のように、Shift（シフト）キーを押しながら、Delete（デリート）キーを押す動作を、

Shift + Delete

と表記しています。

また、キーボード上の絵は、次のように簡略化して表記しています。

キー表記とキーボードの対応表

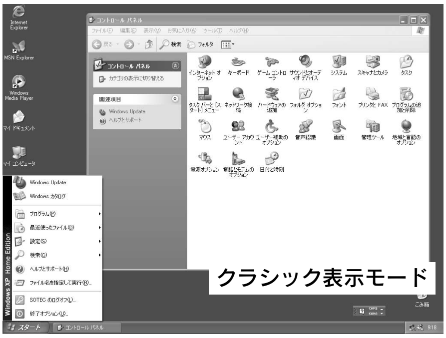
本書の表記	実際のキー	本書の表記	実際のキー	本書の表記	実際のキー
Esc	Esc	BackSpace	Back Space	PageDown	↓ PgDn
Tab	Tab	Insert	Insert PrtScr	F1 F2…	F1 F11　F2 F12
Ctrl	Ctrl	Delete	Delete SysRq	変換	変換
Shift	Shift	Home	← Home	半角/全角	半角/全角 漢字
Alt	Alt	End	→ End	NumLk	NumLk
Space	[スペースキー]	↑↓←→	↑PgUp ↓PgDn ←Home →End	[Windowsキー]	[Windowsキー]
Enter↵	Enter	PageUp	↑ PgUp	[アプリケーションキー]	[アプリケーションキー]

Windows XPの表記ルール

カテゴリ表示モードの画面で説明しています。

Windows XPには、カテゴリ表示モードと呼ばれる通常の表示方法と、Windows2000など従来の表示イメージにあわせたクラシック表示モードと呼ばれる表示方法があります。本書では、カテゴリ表示モードの画面で説明しています。


カテゴリ表示モード


クラシック表示モード

Windows XP Home Editionの画面で説明しています。

Windows XPには、Windows XP ProfessionalとWindows XP Home Editionの2種類のバージョンがあります。本書では、Windows XP Home Editionの画面で説明しています。

Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

本書では、Microsoft Windows XP Professional日本語版およびMicrosoft Windows XP Home Edition 日本語版を、Windows XPまたはWindowsと省略して表記しています。

モデル名の表記ルール

本製品に付属の製品仕様書から、マニュアルで表記しているモデル名をご確認ください。

●光ディスクドライブの区別による表記

CD-ROMドライブモデル

CD-ROMの読み込みのみできるドライブを搭載しているモデル

CD-R/RWドライブモデル

CD-ROMの読み込みと、CD-R/RWメディアへの書き込みができるドライブを搭載しているモデル

コンビネーションドライブモデル

CD-ROM、DVD-ROMの読み込みと、CD-R/RWメディアへの書き込みができるドライブを搭載しているモデル

※本書では光ディスクドライブを総称してCD-ROMドライブと表記しています。

●OSの区別による表記

XP Homeモデル

Windows XP Home Edition をインストールしてるモデル

XP Proモデル

Windows XP Professional をインストールしているモデル

チェック

・本書中の画面・イラストはモデル、ご使用の環境により実際のものと異なる場合がございます。
・記載しておりますホームページの内容やアドレス、お問い合わせ番号は、本書制作時点のものであり、変更する場合がございます。

目　次

STEP1 セットアップをはじめよう

STEP2 ご使用になる前に

STEP3 周辺機器を使いこなす

付 録

STEP 1

セットアップをはじめよう

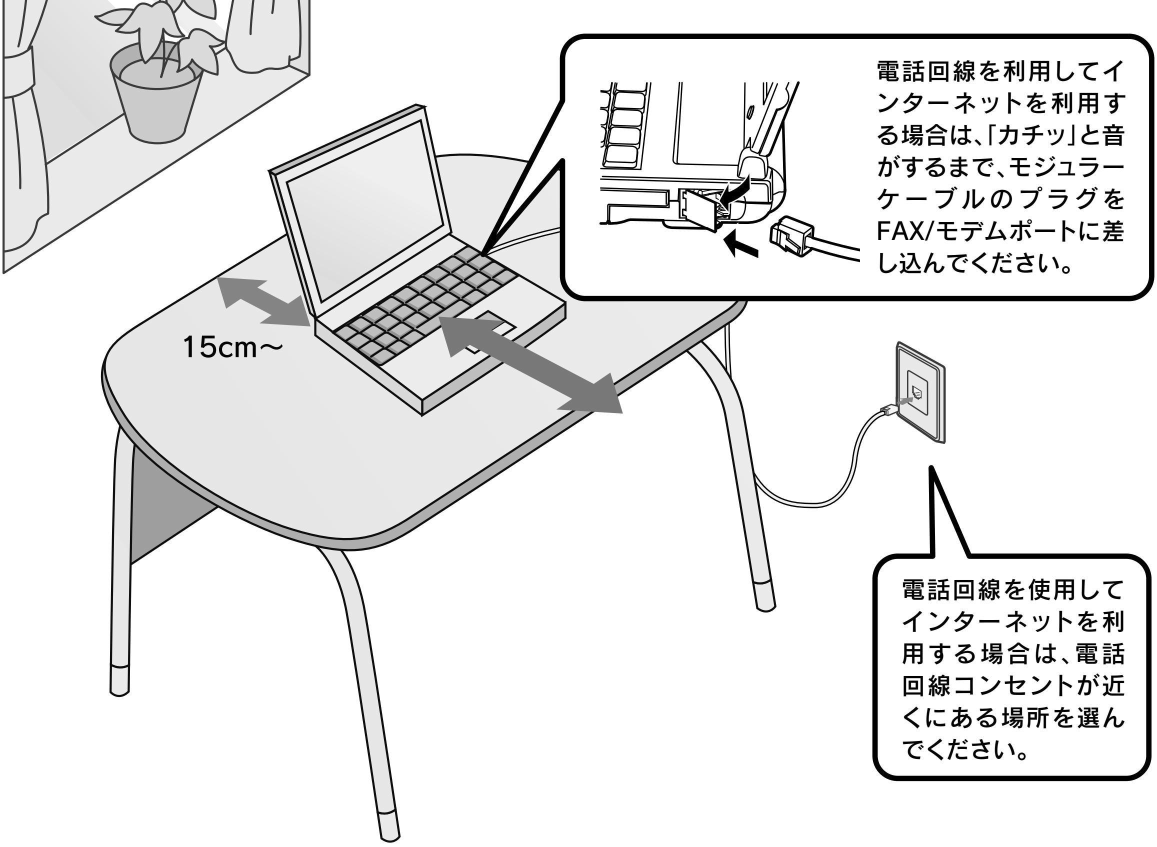
本製品の接続方法と、セットアップから電源のON、OFFまでを説明しています。
これから本製品を使うための準備をします。必ずお読みください。

1 置き場所を決める

WinBookが手元に届いたら、まず、設置場所を決めてください。

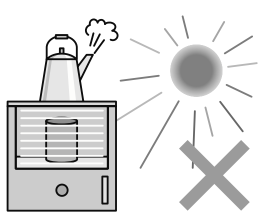
1 **パソコンの後ろは、排気口から熱が排出できるよう、15cm以上開けてください。**

2 **パソコンの前は、キーボードやタッチパッドが操作しやすいようにゆとりをもってください。**

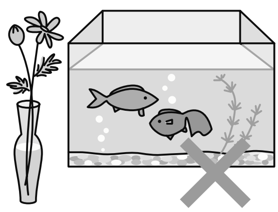


●置いてはいけない場所

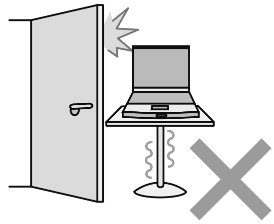
直射日光のあたる場所、ストーブなど熱源の近く。



水がかかりそうな場所。

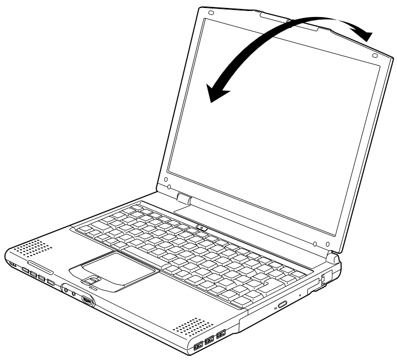


不安定な場所、物がぶつかりそうな場所。



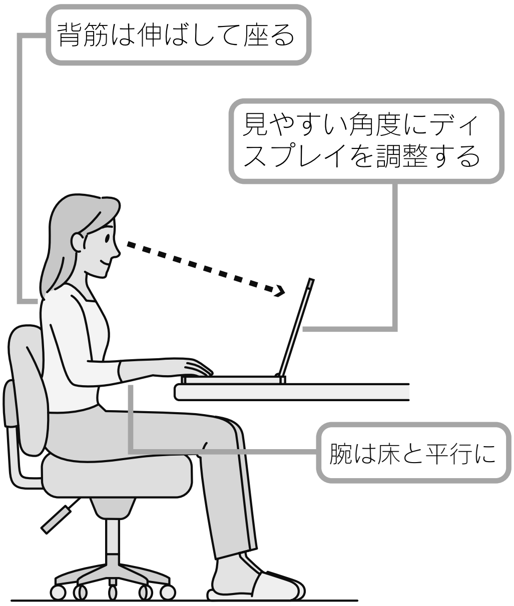
ディスプレイの角度調整について

ディスプレイは、見やすい角度に調整できます。



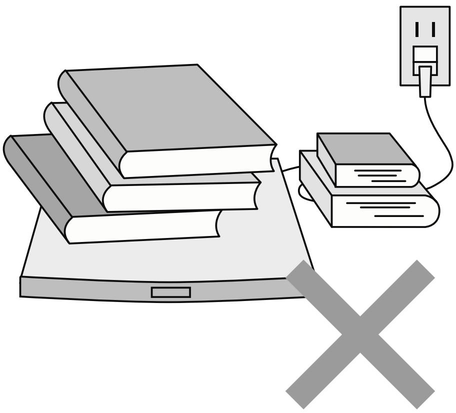
正しい姿勢について

次のように正しい姿勢で、パソコンの前に座ってください。



管理について

本体および電源ケーブルの上に重いものをのせたり、通風孔を塞いだりしないでください。



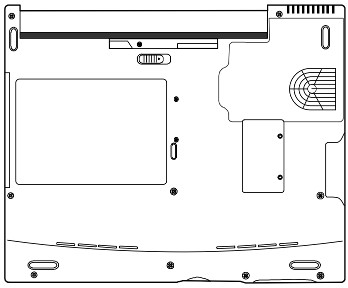
2 接続する

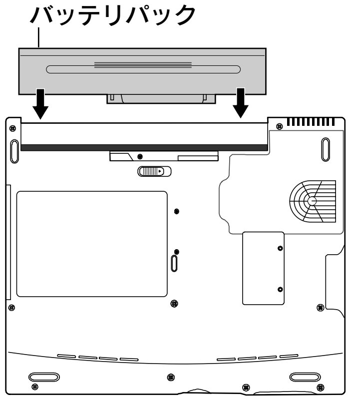
必要な機器を接続しましょう。
スキャナやプリンタなど、すでに周辺機器をお持ちの場合でも、Windows XPセットアップが終了するまでは接続しないでください。

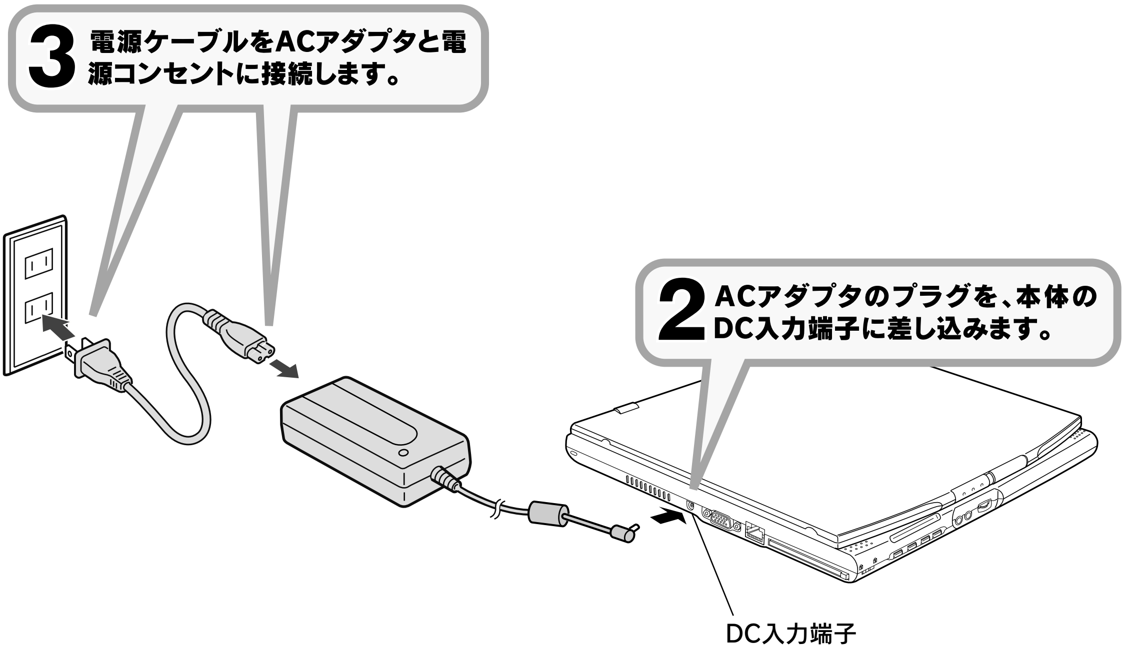
1 バッテリパックを取り付けます。

1 ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。

2 バッテリパックを矢印の方向に動かしながら取り付けます。







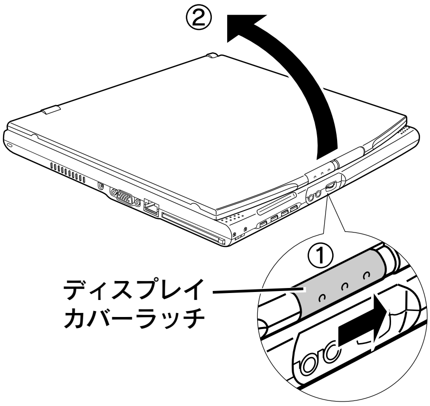
3 セットアップをはじめる

パソコンに自分の名前などを登録して、パソコンを使える状態にする作業のことを、「セットアップ」といいます。セットアップが終わると、さまざまなソフトが使えるようになります。

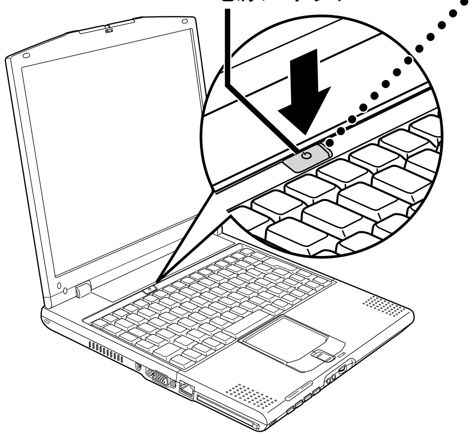
メモ　セットアップはあわてずに！

セットアップ作業中の画面の切り換えには、少し時間がかかることがあります。
これは、パソコン内部でいろいろな設定が処理されているためです。「しばらくお待ちください」といったメッセージが表示されたり、マウスカーソル(マウスポインタ)の矢印が ⌛ (砂時計)になっているときは、キーボードのキーを押したり、タッチパッドのボタンを何度も押さないでください。

セットアップの準備をする



1 手前のディスプレイカバーラッチを右へスライドして(①)、見やすい角度までディスプレイカバーを開きます(②)。



2 電源スイッチを押します。

パソコンの電源をONにしてから、しばらくの間は、画面の表示がいろいろ変化します。手順3の画面が表示されるまで、お待ちください。



チェック

操作の途中で電源を切らない！
セットアップ作業には、少し時間がかかります。
セットアップの作業中は、絶対にパソコンの電源を切らないでください。セットアップが終わる前に電源を切ると、故障の原因になります。



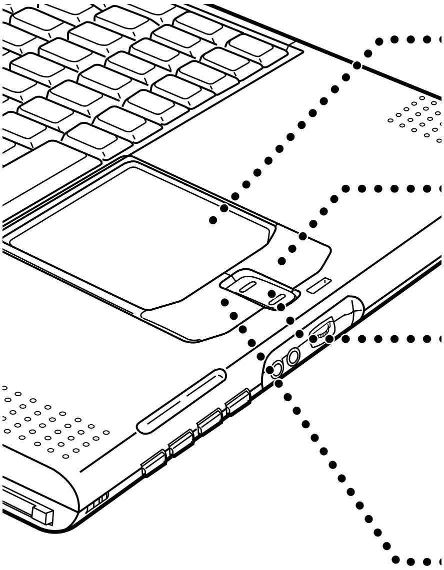
3 **[次へ]ボタンにタッチパッドの矢印を合わせて、左クリックします。**

チェック

分からないことがあったら・・・
Windows XPのセットアップの途中で分からないことがあれば、ヘルプで調べることができます。をクリックするか[F1]キーを押すとヘルプを参照できます。

タッチパッドの使いかた

ここではタッチパッドを一度も使ったことがない方を対象として、次の手順に入る前に、タッチパッドの名前と機能を簡単に説明します。



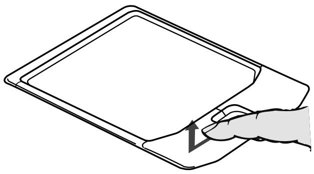
タッチパッド
タッチパッドの上を、矢印を移動させたい方向にあわせて、指でなぞります。

右ボタン
右クリックするときに1回押します。
マウスの右ボタンと同じ働きをします。

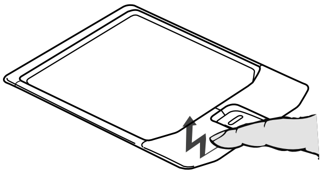
スクロールボタン
画面を上下スクロールするときに、このスクロールボタンを押します。
セットアップでは、スクロールボタンは使用しません。

左ボタン
左クリックするときに1回押します。
マウスの左ボタンと同じ働きをします。

クリック
画面の文字やアイコンなどにタッチパッドの矢印を合わせ、ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。
クリックは、Windowsを操作するときの最も基本的な動作です。



ダブルクリック
画面の文字やアイコンなどにタッチパッドの矢印を合わせ、タッチパッドのボタンを素早く2回押す操作を「ダブルクリック」といいます。セットアップ終了後、アプリケーションを起動するときなどに使います。



使用許諾契約書に同意する

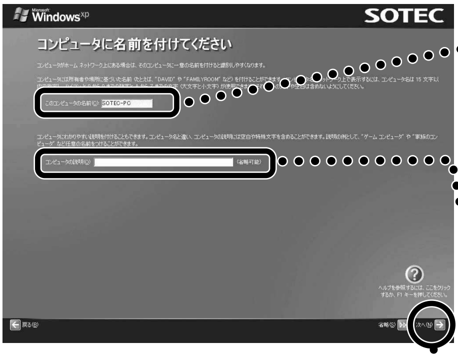
使用許諾契約書に同意します。
同意しないと、Windows XPを使用することができません。



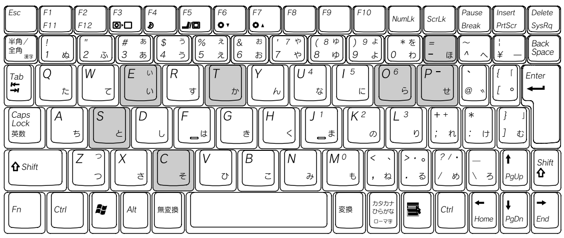
1. 使用許諾契約書を確認します。
2. 同意したら、[同意します]の を左クリックして、 に変えます。
3. [次へ]ボタンを左クリックします。

本機を設定する

コンピュータに名前をつけます。ここでは例として、「SOTEC-PC」と入力します。



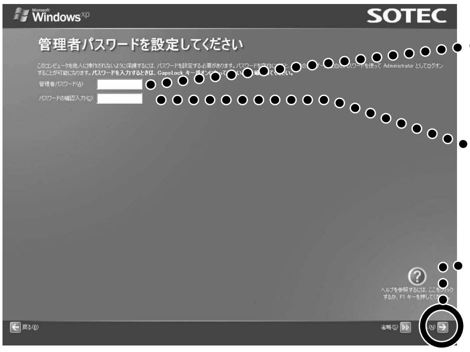
1. キーボードから、S O T E C − P C の順にキーを押します。



2. 任意でコンピュータの説明を入力します。省略してもかまいません。
3. [次へ]ボタンを左クリックします。

XP Proモデルの方は ············ 4 へ進む

XP Homeモデルの方は ·········· 9 へ進む



4 「管理者パスワード」の欄に、任意でパスワードを入力します。

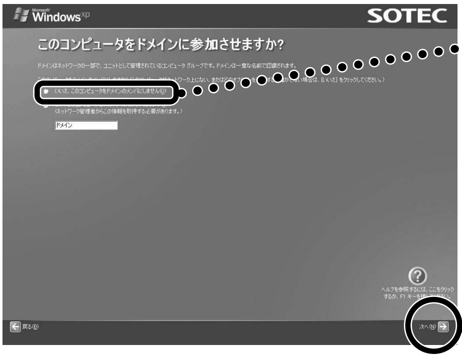
5 「パスワードの確認入力」の欄に「管理者パスワード」と同じパスワードを入力します。

6 [次へ]ボタンを左クリックします。

チェック

管理者パスワードとは

「管理者パスワード」とは、本機の設定を管理する人のためのパスワードです。ここで設定したパスワードは絶対忘れないようにしてください。パスワードを忘れてしまうとWindows XPの再インストール(リカバリー)が必要になります。



7 「いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません」にチェックを入れます。

メモ

ドメインの設定は、セットアップ終了後に行うことをお勧めします。

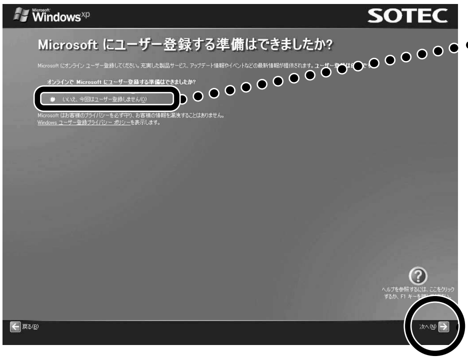
8 [次へ]ボタンを左クリックします。



9 [省略]ボタンを左クリックします。

メモ

インターネットへの接続設定は、セットアップ終了後に行うことをお勧めします。



10 **ここでは、「いいえ、今回はユーザー登録しません」にチェックを入れます。**

チェック

オンラインでのユーザー登録は、事前にインターネット接続を設定する必要があります。また、ユーザー登録は、セットアップ後でも行えます。

11 **[次へ]ボタンを左クリックします。**

メモ

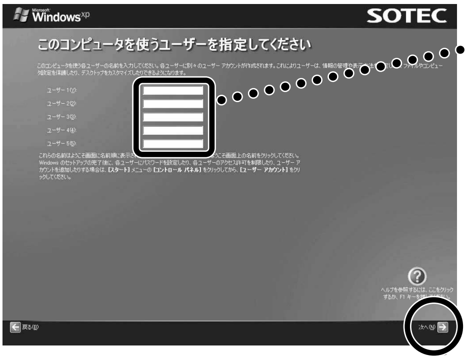


ここでオンライン登録する必要はありません

オンライン登録は、セットアップ終了後に行うことをお勧めします。このマニュアルでは、オンライン登録するための、インターネットの設定方法を説明していません。左のような画面が表示されてしまった場合は、[戻る]ボタンを左クリックして１つ前の画面に戻ってください。

ユーザー名を登録する

本機を使用するユーザーのユーザー名を入力します。



1 **各ユーザー名を任意で入力します。**

チェック

- ユーザー名は最低1つ以上入力してください。
- 複数のユーザーで使用する場合、ユーザー名が同じにならないようにしてください。

メモ

セットアップ終了後でも、「コントロールパネル」の「ユーザーアカウント」からユーザーを追加することができます。

2 **[次へ]ボタンを左クリックします。**

セットアップを完了する

いよいよセットアップの完了です。



1 **[完了]ボタンを左クリックします。**

クリックした後、本機は自動的に再起動します。

チェック
再起動中は、画面の表示がいろいろ変化しますが、パソコンの異常ではありません。絶対に電源を切らないでください。



※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

再起動が終了して、左の画面が出てきたら、セットアップは完了です。いよいよインターネット、メール、オーディオ、ゲームなどが使えるようになります。

4 電源を切る

セットアップが終了したら、電源をOFFにしましょう。



1 [スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。

> **チェック**
> いきなり電源スイッチを押して電源をOFFにする動作を繰り返すと、Windows XPのシステムが壊れて、Windows XPの再インストールが必要になることがあります。電源をOFFにするときは正しい手順で操作してください。

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。



2 [電源を切る]をクリックします。

> **参照**
> [スタンバイ]の使いかたについては、62～66ページをご参照ください。

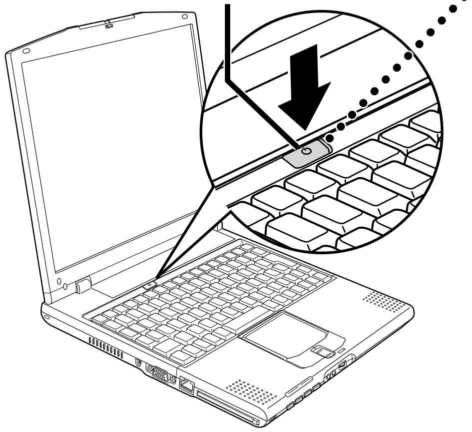
> **メモ**
> **キーボードを使ってWindowsを終了するには**
> [Windows]キーを押し、[U]キーで[終了オプション]を選択します。【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されたら、再度[U]キーを押します。

自動的に本体の電源がOFFになります。

3 必要に応じて周辺機器の電源をOFFにします。

5 2回目以降に電源を入れたときは

Windows XPセットアップが終了すれば、次に電源をONにしたとき、そのままWindows XPのデスクトップ画面が表示されます。



1 電源スイッチを押します。



※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

2 しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

> **チェック**
> リカバリCD-ROMをCD-ROMドライブに入れたままパソコンの電源をONにすると、リカバリの開始画面が表示されてしまいます。その場合、画面の指示に従い、再インストールを中断した後、リカバリCD-ROMを取り出してから再起動してください。

6 電源を切らずに再起動する

デバイスドライバのインストールが終了した後や、Windowsの動作が不安定(画面が乱れたり、画面が動かない)になったときは、次の手順で、Windowsを再起動させます。



1 [スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。



2 [再起動]をクリックします。

メモ

アプリケーションソフトの操作中に、マウスカーソルが動かなくなってしまったときなど、操作が続けられないときは、Ctrl＋Alt＋Deleteキーを同時に押すことで、特定のアプリケーションソフトを終了させることができます。(☞ 別冊の「困ったときには…」)

7 ログオン/ログオフする

本製品を複数の人間で利用するとき、ログオン/ログオフ作業が必要です。
ログオンすることで、各自の使用環境を切り分けて本製品を使えます。

ログオンする

Windows起動時にログオンするユーザを選択することで、対応する使用環境を割り当てます。



1 パソコンの電源をONにします。

しばらくするとユーザの選択画面が表示されます。



**2 ログオンするユーザを選択します。
パスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。**

メモ
パスワードが拒否された場合は、大文字と小文字を間違って入力していないか再度ご確認ください。Windows XP では、Tarouとtarouは違う文字列として判別されます。



※再起動後に表示されるデスクトップ画面は、ご購入いただいたパソコンによって異なります。

しばらくすると、Windows XPのデスクトップ画面が表示されます。

チェック
パスワードを設定する場合、入力したパスワードはメモをとるなどして、忘れないようにしてください。

ログオフする

本製品起動時にログオンしたユーザを、ログオフします。
ログオフすることで、今まで使用していたユーザに割り当てられていた使用環境が無効になります。



1 **[スタート]ボタン→[ログオフ]を選択します。**

【Windowsのログオフ】ダイアログが表示されます。



2 **[ログオフ]を選択します。**

現在選択されているユーザがログオフされます。

ユーザーの切り替え

「ログオフ/ログオン」機能では、ユーザが本機にログインする前に、それまで使用していたユーザがログオフしなければなりませんでした。
それに対して、「ユーザーの切り替え」機能は、同時に複数のユーザーが本機にログオンできます。ユーザを切り替えることで、複数のユーザがログインしていても使用環境を使い分けることができます。



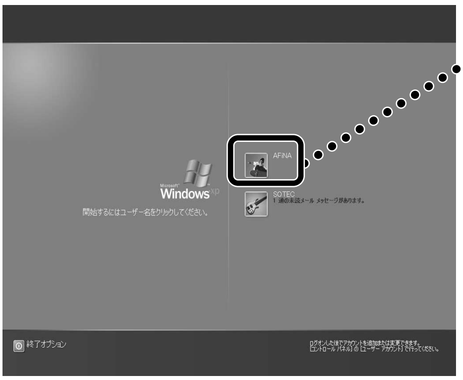
1 **[スタート]ボタン→[ログオフ]を選択します。**

【Windowsのログオフ】ダイアログが表示されます。



2 **[ユーザーの切り替え]ボタンをクリックします。**

今まで使用していたユーザーアカウントがWindows XPよりログオフされ、ログオン画面が表示されます。



3 **新しく使用するユーザーアカウントを選択します。**

新たなユーザーアカウントでWindows XPにログオンしました。
以上でユーザーの切り替えは終了です。

STEP2

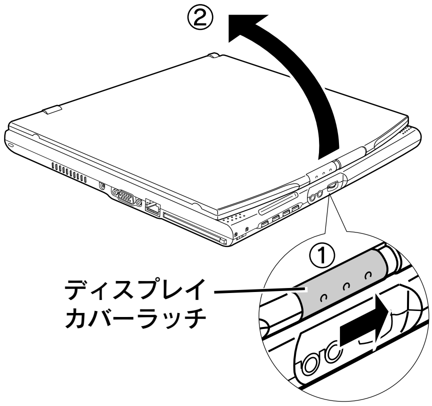
ご使用になる前に

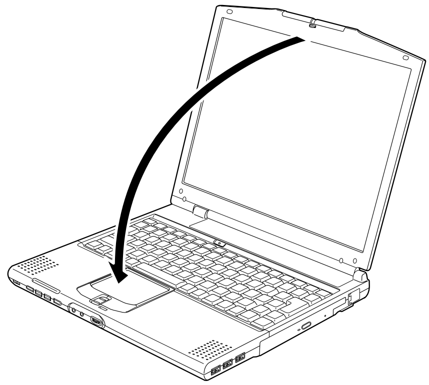
本製品各部の名前と機能の説明、タッチパッドやCD-ROMドライブなど、本製品の基本的な操作方法を説明しています。必ずお読みください。

1 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明しています。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページも合わせてお読みください。

ディスプレイカバーの開け閉め

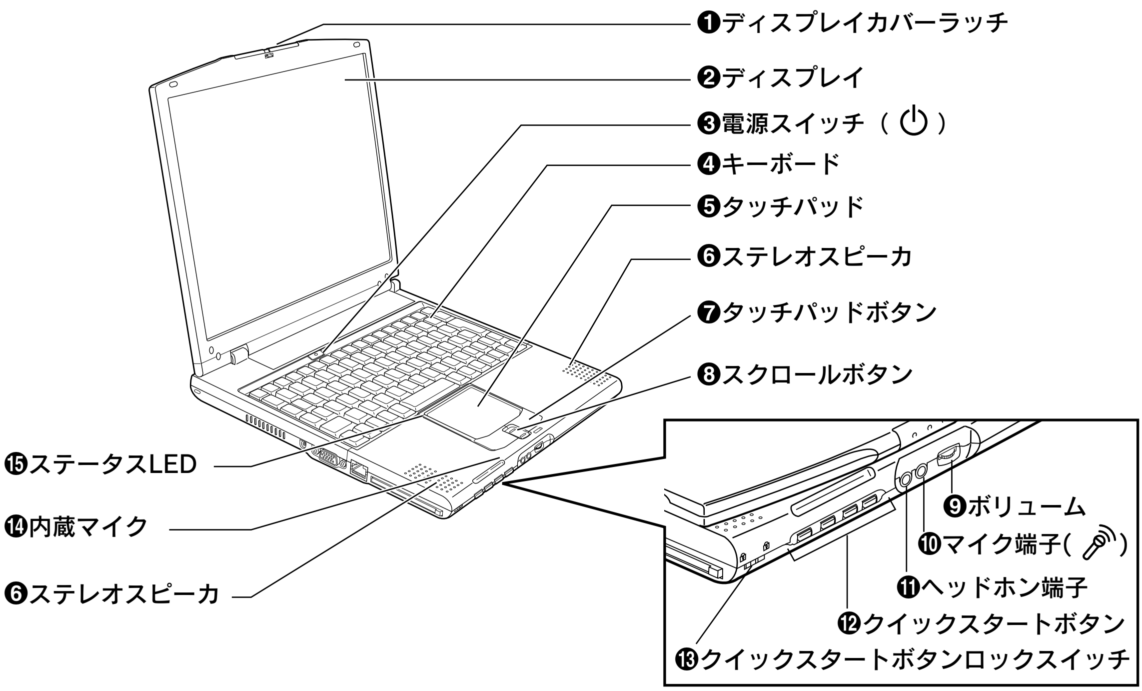




ディスプレイカバーを開けるときは、手前のディスプレイカバーラッチを右へスライドして(①)、ロックを解除し、見やすい角度まで開きます(②)。

ディスプレイカバーを閉じるときは、ディスプレイカバーから「カチッ」と音がするまで手前に倒して、ディスプレイカバーラッチがロックするようにします。

前　面



❶ **ディスプレイカバーラッチ**
右へスライドさせてディスプレイのロックを解除します。ディスプレイを閉じるときは、ディスプレイカバーラッチが本体にロックされるようにします。

❷ **ディスプレイ**
文字やグラフィックが表示されます。
省電力機能(☞ 62〜66ページ)によりパソコンが動作していなければ、自動的にディスプレイの表示が消えるように設定できます。

❸ **電源スイッチ（⏻）**
本体の電源をONします。(☞ 27ページ)
また、電源スイッチを押したときに、省電力機能(☞ 62〜66ページ)で設定した動作を実行させることができます。

⚠ 注意
HDD LED、CD-ROM LEDが点灯しているときに、パソコンの電源をOFFにしたり、リセットしたりしないでください。ドライブが故障したり、データが壊れたりする恐れがあります。
また、電源をOFFにした後、再度電源をONにするときは、5秒以上待ってから操作してください。

❹ **キーボード**
キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ったりします。(☞ 46〜50ページ)

❺ **タッチパッド**
指を軽くのせて動かすと、ディスプレイ上のマウスポインタが移動します。
(☞ 44〜45ページ)

❻ **ステレオスピーカ**
Windowsのシステム音や、マルチメディアを使用したときの音声が、ステレオで出力されます。
(☞ 56〜57ページ)

❼ **タッチパッドボタン**
それぞれ、マウスの右ボタン、左ボタンに対応しています。(☞ 44〜45ページ)

❽ **スクロールボタン**
ウィンドウのスクロールに使用します。
(☞ 45ページ)

❾ **ボリューム**
内蔵スピーカから出力される音量を調整します。(☞ 57ページ)

❿ **マイク端子（🎤）**
外部オーディオ機器を接続し、音声をパソコンに取り込みます。(☞ 75ページ)

⓫ **ヘッドホン端子**
市販のヘッドホンを接続します。
音声はステレオで出力されます。
(☞ 74ページ)

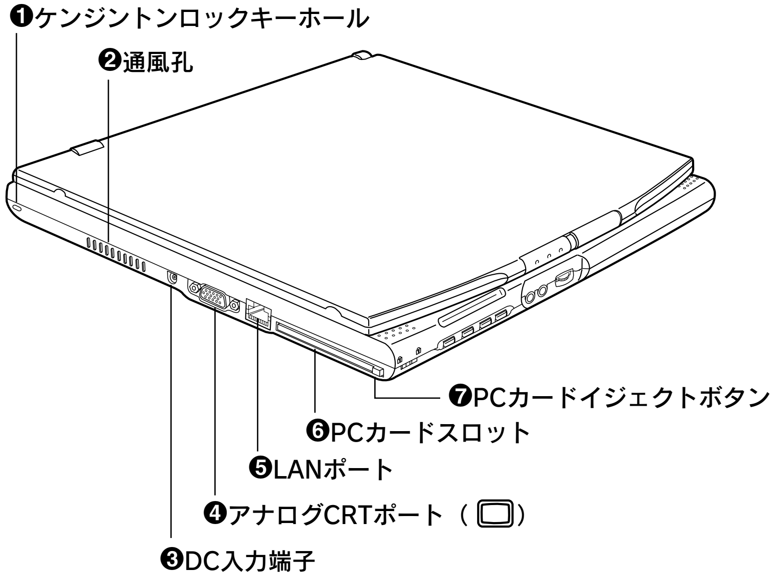
⓬ **クイックスタートボタン**
Eメールの受信、ホームページへのアクセスなどがワンタッチでできるボタンです。
(☞ 48ページ)

⓭ **クイックスタートボタンロックスイッチ**
ロックに合わせると、クイックスタートボタンが機能しなくなります。(☞ 48ページ)

⓮ **内蔵マイク**
音声を本機に取り込みます。

⓯ **ステータスLED**
パソコンの動作状態が表示されます。
(☞ 39ページ)

左側面



❶ **ケンジントンロックキーホール**
盗難防止用のロックに使用するための、取り付け穴です。

❷ **通風孔**
パソコン内部の熱を冷却する風を通します。壁などで塞がないでください。

❸ **DC入力端子**
付属のACアダプタを接続します。
(☞ 18ページ)

> ⚠ 注 意
> ・付属のACアダプタ以外は絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
> ・ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

❹ **アナログCRTポート（ ）**
外部ディスプレイを接続します。
(☞ 90ページ)

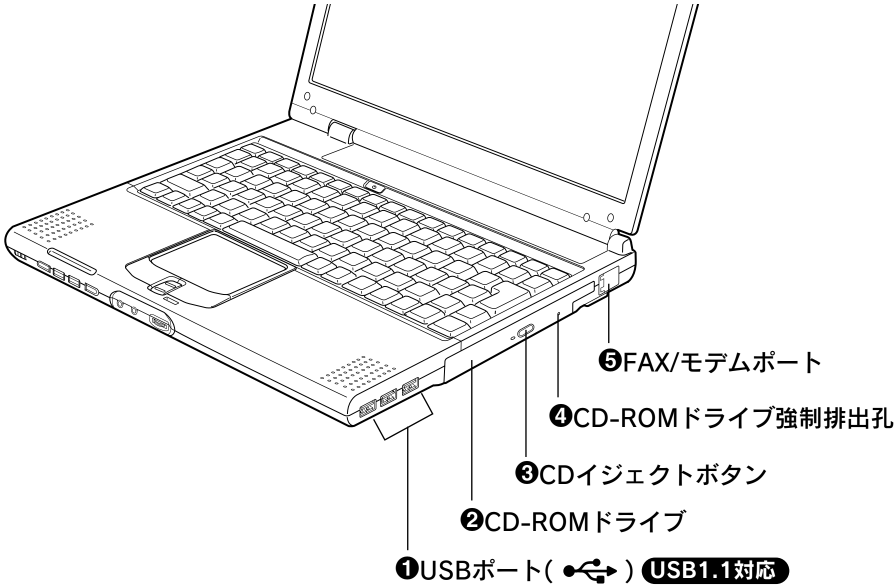
❺ **LANポート**
10BASE-T/100BASE-TX接続対応のLANポートです。

> ⚠ 注 意
> 本機のLANポートに接続できるケーブルは10BASE-T/100BASE-TX規格のイーサネットケーブルのみです。それ以外の規格のケーブルは使用しないでください。特にISDNケーブル・モジュラーケーブルは、絶対にLANポートへ接続しないでください。故障の原因となります。

❻ **PCカードスロット**
PC Card Standard準拠のPCカードを差し込みます。(☞ 83ページ)

❼ **PCカードイジェクトボタン**
差し込んだPCカードを取り出します。
(☞ 85ページ)

右側面



❶ USBポート( ) USB1.1対応
USB対応の周辺機器を接続します。USB2.0規格準拠の周辺機器も使用できますが、転送速度などはUSB1.1規格(Full-Speed)にもとづきます。
(☞ 76〜81ページ)

❷ CD-ROMドライブ
(CD-ROMドライブモデルの場合)
CD-R/RWドライブ
(CD-R/RWドライブモデルの場合)
コンビネーションドライブ
(コンビネーションドライブモデルの場合)
CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM、またはDVD-R/RWディスクを挿入します。使用できるメディアはモデルによって異なります。
(☞ 53〜55ページ)

❸ CDイジェクトボタン
CD-ROMドライブにCD-ROMディスクを挿入するとき、または取り出すときに押すボタンです。

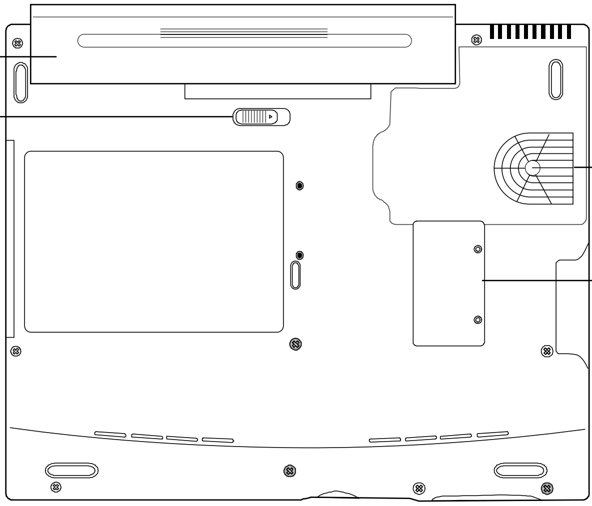
❹ CD-ROMドライブ強制排出孔
CDイジェクトボタンを押してもCD-ROMドライブが出てこない場合、針金などを押し込むと、CD-ROMドライブを強制的に排出させることができます。(☞ 54ページ)

> ⚠ 注 意
> CD-ROMドライブが正常に動作している場合は使用しないでください。頻繁に使用すると故障の原因となります。

❺ FAX/モデムポート
アナログ電話回線と接続します。
(☞ 16ページ)

> ⚠ 注 意
> モジュラーケーブル以外のケーブルは絶対に差し込まないでください。故障の原因となります。

底　面



❶ **通風孔**

パソコン内部の熱を冷却する風を通します。

❷ **増設用メモリモジュール**

増設用メモリを取り付けることができます。
(☞ 87～88ページ)

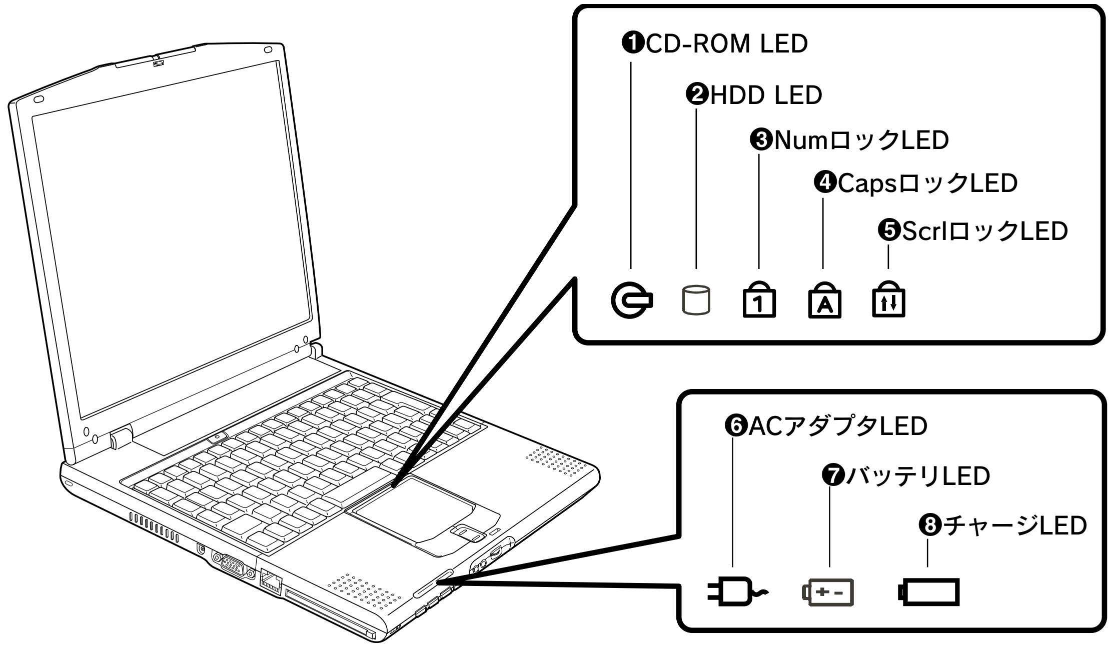
❸ **バッテリ固定用ラッチ**

バッテリパックを取り外すときに、スライドさせながら取り外します。
(☞ 43ページ)

❹ **バッテリパック**

ACコンセントが無い場所でパソコンを動作させるためのバッテリです。
(☞ 40ページ)

ステータスLEDについて



❶ CD-ROM LED（ ）
CD-ROMドライブのアクセス中に点灯します。

❷ HDD LED（ ）
ハードディスクドライブのアクセス中に点灯します。

❸ NumロックLED（ ）
NumLkキーがロック状態のときに点灯します。

❹ CapsロックLED（ ）
CapsLockキーがロック状態のときに点灯します。ロック状態時は、Shiftキーを押さずアルファベットを大文字で入力できます。

❺ ScrlロックLED（ ）
ScrollLockキーがロック状態のときに点灯します。ロック状態の機能は、使用するアプリケーションにより異なります。

❻ ACアダプタLED（ ）
ACアダプタ使用時の電源状態を表示します。
(☞41ページ)

❼ バッテリLED（ ）
バッテリ使用時の電源状態を表示します。
(☞41ページ)

❽ チャージLED（ ）
バッテリの充電状態を表示します。
(☞41ページ)

> **注 意**
> HDD LED、CD-ROM LEDが点灯しているときに、パソコンの電源をOFFにしたり、リセットしたりしないでください。ドライブが故障したり、データが壊れたりする恐れがあります。
> また、電源をOFFにした後、再度電源をONにするときは、5秒以上待ってから操作してください。

2 ACアダプタの接続とバッテリの充電

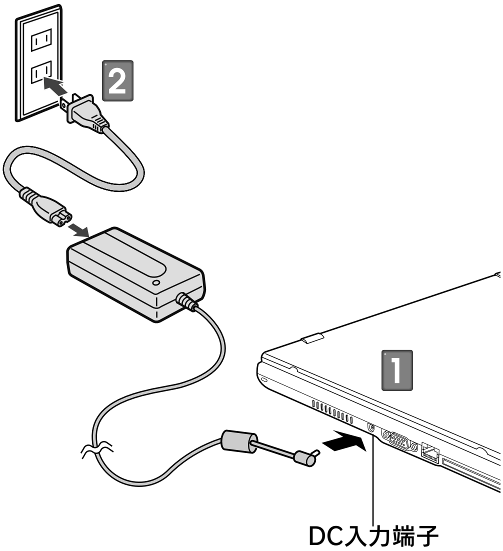
本機の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

初めて使うときは

バッテリは十分に充電されていない状態で出荷されています。初めてお使いになるときは、バッテリパックを取り付けてから、ACアダプタを接続してご使用ください。
ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後、まずバッテリパックを装着して、充電をしてください。

警　告
- 弊社純正のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。火災・感電の恐れがあります。
- ACアダプタの上に物をのせたり、くるんだりしないでください。ACアダプタが発熱し、火災を起こす恐れがあります。

●ACアダプタの接続とバッテリの充電



1 ACアダプタのプラグを、本体左側面のDC入力端子に差し込みます。

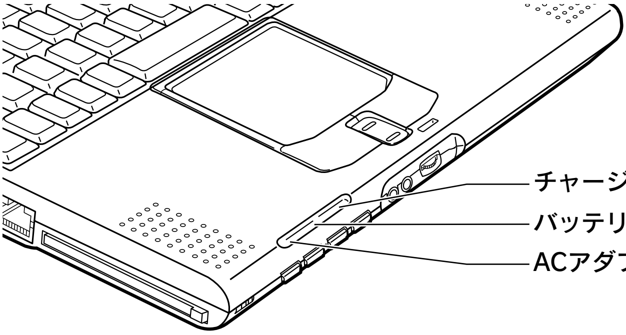
2 電源ケーブルをACアダプタと電源コンセントに接続します。

チャージLED(▭)が緑色に点滅し、充電が始まります。

メモ
使用できるAC電源は何ボルト?
本製品に付属のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており、自動的に切り替わりますので、海外でもお使いになれます。ただし、海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。

バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。
AC電源でお使いのときは、このままACアダプタを接続したままでお使いください。

ステータスLEDの表示



ACアダプタLED( )

状　態	内　容
緑色の点灯	ACアダプタを使用して、電源がONの状態です。
緑色の点滅	ACアダプタを使用して、電源がスタンバイの状態です。

バッテリLED( )

状　態	内　容
緑色の点灯	バッテリを使用して、電源がONの状態です。
緑色の点滅	バッテリを使用して、電源がスタンバイの状態です。

チャージLED( )

状　態	内　容
緑色の点灯	バッテリが満充電の状態です。
緑色の点滅	バッテリが充電中の状態です。

注　意

・バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず「バッテリパックの交換」(☞ 43ページ)の説明に従って交換してください。
・バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生する恐れがあります。バッテリの残量がすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源がOFFになります。バッテリの警告音が鳴ったらすぐにデータを保存してください。

メモ

スタンバイと休止状態

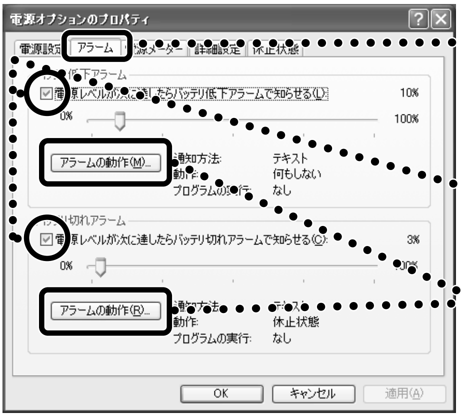
スタンバイはアプリケーションソフトなどの動作状態をメモリに保存し、パソコンの電源をOFFにする機能です。次回、電源をONにすると、電源をOFFにした直前の状態で、パソコンが起動されます。
使用中のアプリケーションソフトを終了させることなく電源をOFFにできるので、アプリケーションソフトを起動し直す必要がありません。ただし、スタンバイの状態では、少量の電力が消費されているため、バッテリのみで使っているときに長時間スタンバイの状態にしておくことはお勧めできません。
休止状態も電源をOFFにする直前の状態で起動させる機能ですが、動作状態をメモリではなく固定ディスクに保存するため、休止状態の間に電力を消費することはありません。
スタンバイと休止状態の設定方法は、「省電力機能を使用する」(☞ 62〜66ページ)をご参照ください。

バッテリの残量警告と終了動作の設定

バッテリ残量が少なくなってきたことを知らせる警告音と、バッテリ残量が無くなったときにパソコンをどのような状態で電源をOFFにするかを設定できます。

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]を選択します。**

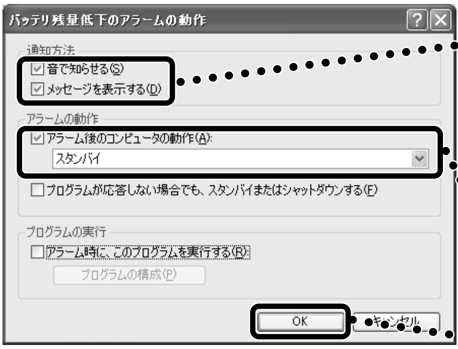
【電源オプションのプロパティ】ダイアログが表示されます。



2 **[アラーム]タブを選択します。**

3 **チェックを入れると、バッテリ残量が警告表示されます。**

4 **[アラームの動作]ボタンをクリックすると、警告表示後のパソコンの動作を設定できます。**



5 **警告の通知方法を音で知らせるか、メッセージで表示させるかを選択します。**

両方を選択することもできます。

6 **警告表示後のパソコンの電源状態を、スタンバイ、シャットダウン、休止状態から選択します。**

7 **[OK]ボタンをクリックします。**

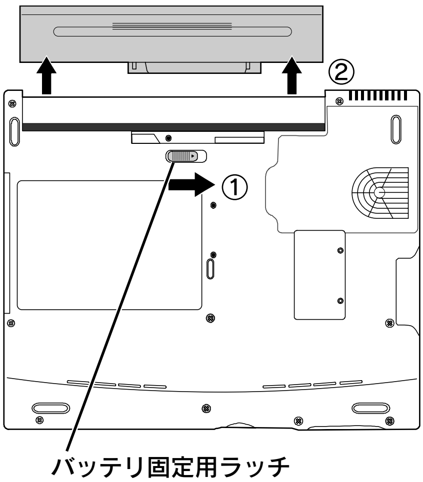
バッテリパックの交換

警　告

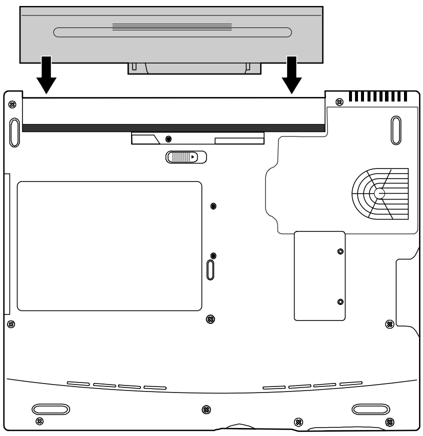
・弊社純正のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行わないでください。爆発したり火災を起こす恐れがあります。
・バッテリパックの取り扱いについては「本製品を正しく安全にお使いいただくために」(☞ 2〜5ページ)も必ずお読みください。

バッテリパックの交換は、電源がOFFのときしかできません。交換の前には、ACアダプタLED、バッテリLEDが消灯していることを確かめてください。

1 **ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返して、静かに置きます。**



2 **バッテリ固定用ラッチを矢印の方向にスライドさせながら(①)、バッテリパックを取り外します(②)。**



3 **交換用のバッテリパックを矢印の方向にはめ込みます。**

メモ

バッテリ固定用ラッチがロックされるまで、確実にはめ込んでください。

3 タッチパッドを使ってみよう

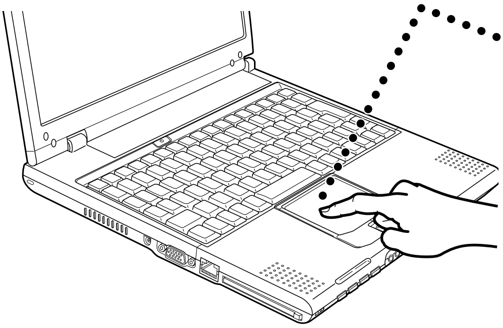
本機には、マウスと同じ機能を持つ「タッチパッド」があります。タッチパッドを使って画面上のマウスポインタ(マウスカーソルともいう)を動かし、Windowsを操作します。

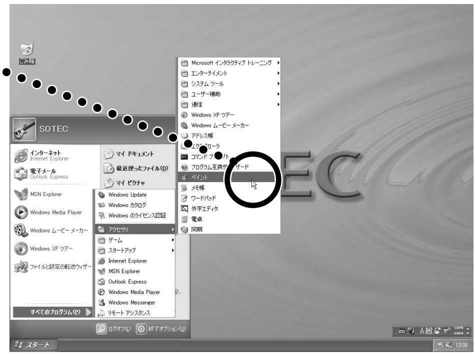
> ⚠ 注 意
> ・タッチパッドをペン先などの先の尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。
> ・2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。また、指先の皮脂や汚れによっても正常に動作しない場合がありますので、そのときは、十分に汚れを取りのぞいてからご使用ください。
> ・マウスポインタはタッチパッドを軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。

タッチパッドの名前と機能

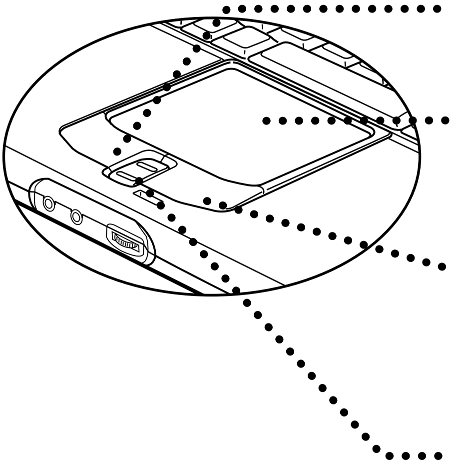
タッチパッドは、本製品のキーボードの手前中央にあります。タッチパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のマウスポインタがその動きに応じて動きます。

タッチパッド上の指の動きに合わせて、
マウスポインタも動く





本製品のタッチパッドには次のような名前と機能があります。



左ボタン
左クリックするときに押します。

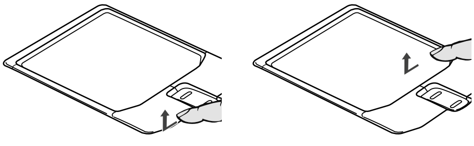
タッチパッド
指を触れて動かすと、画面上のマウスポインタがその動きに応じて動きます。

右ボタン
右クリックするときに押します。
Windowsでは、右クリックするとショートカットメニューが表示されます。

スクロールボタン
画面を上下にスクロールするときに押します。

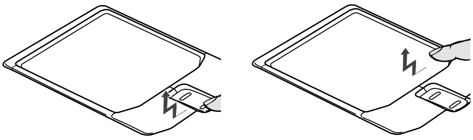
タッチパッドの操作方法

クリックとダブルクリック



■クリック

タッチパッドの左または右ボタンをすばやく押して離すことです。メニューやアイコン、ボタンなどを選択したり、ワープロソフトなどで文字入力の位置を決めるのに使います。タッチパッド上を1回たたいてもクリックできます。



■ダブルクリック

タッチパッドの左または右ボタンを続けて２回すばやくクリックすることです。アイコンを選択してアプリケーションを起動するときなどに使います。タッチパッド上をすばやく2回たたいてもクリックできます。

ドラッグ＆ドロップ

ドラッグとは、アイコンなどをクリックして選んだままの状態で別の場所に動かすことです。
ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、目的の場所に置くことです。



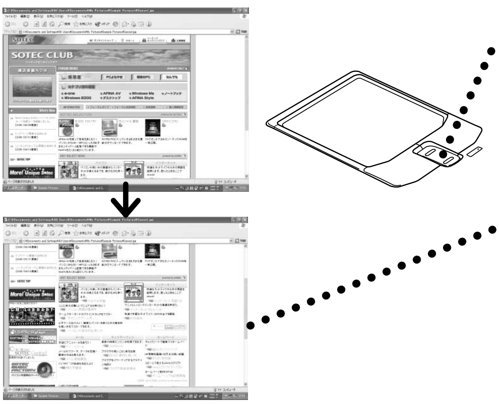
1 **アイコンの上にマウスポインタを合わせて、タッチパッドの左ボタンを押します。（※押したままにしてください。）**

2 **左ボタンを押したままマウスポインタを動かします。**

3 **「ごみ箱」アイコンの上で左ボタンを離すとドロップされ、ごみ箱の中に入ります。**

スクロール

スクロールボタンを押すことで、Windowsの画面を上下にスクロールできます。



スクロールボタンを押す

画面が下にスクロールする

4 キーボードを使ってみよう

キーボードは、文字や記号を入力したりパソコンへ指示をする役目をもっています。ここでは、キーボードの各キーの名前や機能について説明します。

キーはその機能によって、役割が大きく5つに分かれます。
ここでは便宜上、キーボードを色分けして説明していますが、製品のキーボードは色分けされていません。



●Windowsキー

単独で押すとWindows XPの「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows XPの代表的な機能がすぐに使えます。

キー	機能
[Windows]+[F1]	Windows XPの「ヘルプとサポートセンター」を表示
[Windows]+[M]	ウィンドウの最小化
[Windows]+[Tab]	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
[Windows]+[R]	【ファイル名を指定して実行】ダイアログを表示
[Windows]+[E]	マイコンピュータを起動
[Windows]+[F]	ファイルとフォルダ検索画面を起動
[Windows]+[Pause]	【システムのプロパティ】ダイアログを表示
[Windows]+[Ctrl]+[F]	コンピュータの検索画面を起動

●アプリケーションキー

マウスの右ボタンに相当します。使用するアプリケーションによって動作が異なります。お使いのアプリケーションソフトのマニュアルをご参照ください。

●制御キー(薄いアミ部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキー、入力位置を決めるキー、パソコンに対してコマンド(命令)を送るキーなどです。
これらのキーだけを使って文字を直接入力することはできません。

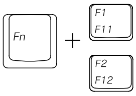
●文字入力キー

主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[CapsLock][Shift][NumLk][ひらがな][カタカナ]の各キーと組み合わせて、目的の文字が入力できます。

ファンクションキー(アミの部分)

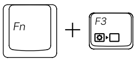
制御キーの一つである[Fn]キーとファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、省電力機能を作動させたりできます。

[F11]・[F12]キーを使用する



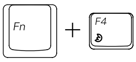
[Fn]キーを押しながら[F1]キーを押すと、[F11]キーとして使用できます。同様に[F2]キーを押すと、[F12]キーとして使用できます。

本体ディスプレイのバックライトのON/OFFを切り替える



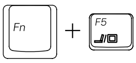
[Fn]キーを押しながら[F3]キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのバックライトのON/OFFを切り替えます。

スタンバイに入る



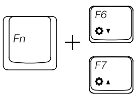
[Fn]キーを押しながら[F4]キーを1回押すと、省電力機能(☞ 64ページ)が働きます。

本体ディスプレイ表示か外部ディスプレイ表示かを切り替える



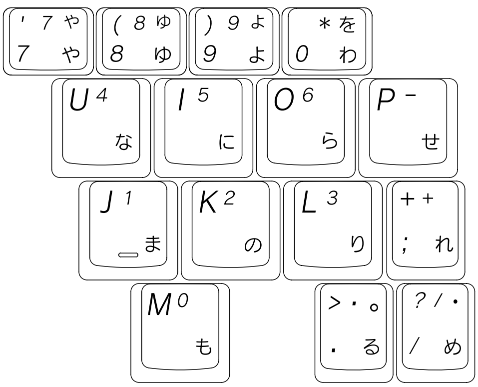
[Fn]キーを押しながら[F5]キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。(☞ 90ページ)

輝度を調整する



[Fn]キーを押しながら[F6]キーを押すごとにディスプレイの輝度が下がり、[F7]キーを押すごとにディスプレイの輝度が高くなります。

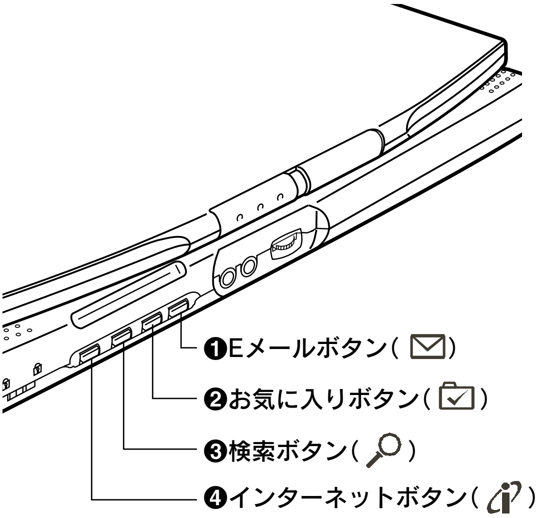
テンキーを使って数字を入力する



通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、[NumLk]キーを押すことで、キーボードの図の部分(ニューメリックキー)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができます。

クイックスタートボタン

ボタンを押すと、ワンタッチで次の機能が使用できます。



❶ Eメールボタン（ ）
Outlook Expressが起動します。

❷ お気に入りボタン（ ）
あらかじめ設定したホームページにジャンプします。

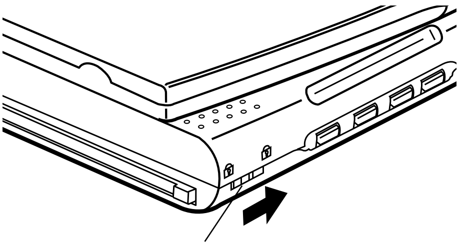
> メモ
> 初期設定では「ソーテックオンライン」(http:www.sotec.co.jp/)が表示されます。

❸ 検索ボタン（ ）
Microsoft社の検索サイト「MSNサーチ」にジャンプします。

❹ インターネットボタン（ ）
Internet Explorerが起動します。

クイックスタートボタンを使用できないようにする

クイックスタートボタンの左横にある、クイックスタートボタンロックスイッチを利用すれば、クイックスタートボタンが使用できなくなります。誤動作させたくないときなどに便利です。



クイックスタートボタンロックスイッチ

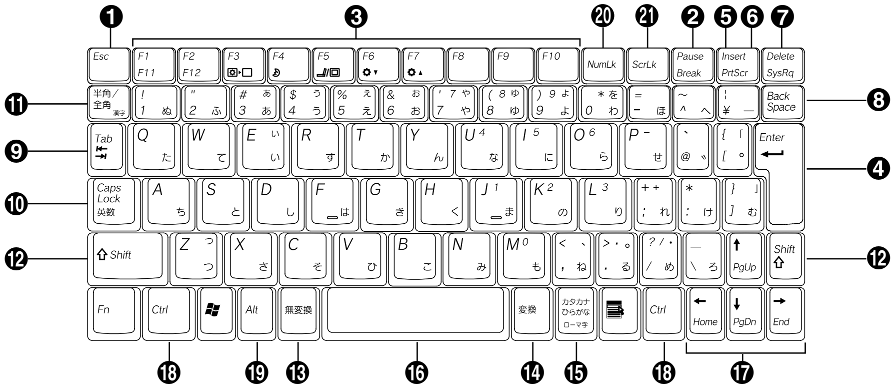
1 クイックスタートボタンロックスイッチを右にスライドさせます。

クイックスタートボタンがロックされます。

2 クイックスタートボタンのロックを解除したい場合は、左にスライドさせます。

各キーの機能

ここでは、キーボードの各キーの名前と機能を説明しています。



中止や中断させるコマンド(命令)を送るときに使います。

❶ Esc(エスケープ)キー
設定を取り消したり、実行を中止します。

❷ Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー
実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送ります。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ ファンクションキー
F1からF12までの10個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。キーを押したときの動作はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹ Enter(エンター)キー
通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させる場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行できます。

画面のハードコピーをとったり、Windows XPの画面を取り込むときに使います。

❺ PrtScr(プリントスクリーン)キー
Fnキーと一緒に押すと、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送します。

文字を編集するときに使います。

❻ Insert(インサート)キー【ロックされます】
文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼ Delete(デリート)キー
カーソル位置から右側の文字を削除します。
カーソル位置は変わりません。

❽ Back Space(バックスペース)キー
カーソル位置から、左側の文字を削除します。
カーソル位置は左に動きます。

メモ

ロック状態について

キーには、1回押すごとに状態が固定されてロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。
ロックされるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとキーボード上のステータスLEDが点灯します。



❾ Tab(タブ)キー
文字を入力しているときに押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shiftキーと同時に押すと、一つ前のタブ位置まで戻ります。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われます。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿ CapsLock(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】
アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shiftキーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。
(☞ 49ページ 「メモ」)

⓫ 半角/全角キー【ロックされます】
文字を入力しているときの文字種を切り替えます。Windows XPの日本語入力システムMicrosoft IMEでは、1回押すごとに「日本語入力モード」がオン/オフになります。また、Altキーと同時に押すと「日本語入力モード」になります。

⓬ Shift(シフト)キー
他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時に押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときに使います。

⓭ 無変換キー
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したくない場合に押すと、入力モードが変わります。

⓮ 変換キー
日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯ カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】
「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ押すと、「ひらがなモード」に、「ひらがなモード」のときはShiftキーと同時に押すと「カタカナモード」に切り替わります。また、Ctrl+Shiftキーと同時に押すとカナキー入力のオン/オフを切り替えることができます。

⓰ スペースキー
文字を入力しているときに押すと、スペース(空白)が入ります。

カーソルを動かしたりページをめくるときに使います。

⓱ カーソルキー
キーに表記されている矢印の方向に、カーソルが移動します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。

⓲ Ctrl(コントロール)キー
文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

⓳ Alt(オルト)キー
オルタネートキーともいい、文字入力キーや、他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作ができます。

⓴ NumLk(ニューメリックロック)キー【ロックされます】
ロックすると、テンキーをテンキーとして動作させます。ロックを外すと特定の動作キーとして動作します。
(☞ 49ページ 「メモ」)

㉑ ScrLk(スクロールロック)キー【ロックされます】
使用しているソフトにより動作は異なりますが、通常はカーソルキーの動きを変えることができます。
(☞ 49ページ 「メモ」)

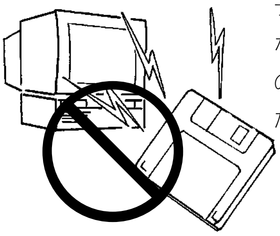
5 フロッピーディスクを使ってみよう

本機にはフロッピーディスクドライブが装備されていません。フロッピーディスクドライブを使うには、別売のフロッピーディスクドライブを用意する必要があります。

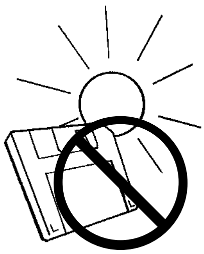
注意

フロッピーディスクを使うときの注意

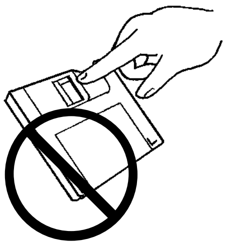
3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、パソコンの電源をOFFにする前に必ずフロッピーディスクドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。



テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。



直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。

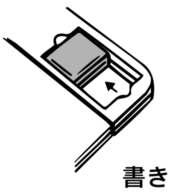


内部の記憶メディアに傷を付ける恐れがあるため、シャッターを開けないでください。

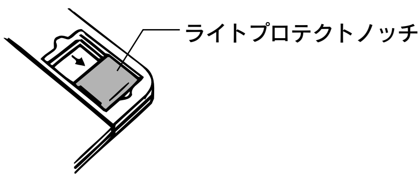


ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

データを書き込み禁止にする



書き込み可能状態



書き込み禁止状態

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができます。
ライトプロテクトを行うにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方の角にあるライトプロテクトノッチを動かします。

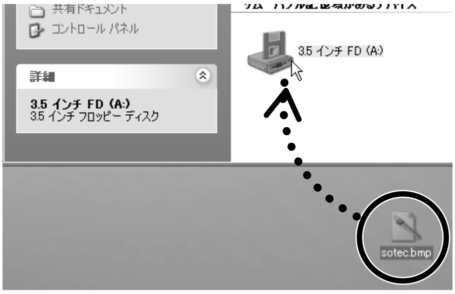
■ライトプロテクトノッチが「上側」になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。

■ライトプロテクトノッチが「下側」になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

ファイルをフロッピーディスクにコピーする

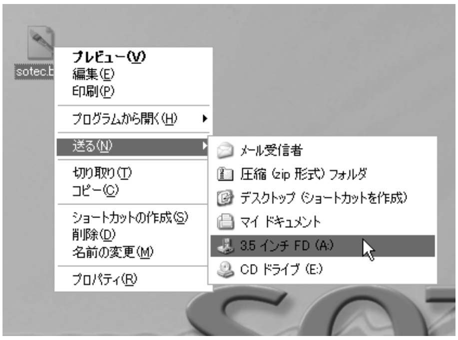
ファイルをフロッピーディスクにコピーするには、次の2通りの方法があります。

●その1



1 **[マイコンピュータ]の中にある[3.5インチFD]アイコンに、ファイルをドラッグアンドドロップします。**

●その2



1 **ファイルを選択した状態で右クリックして、メニューを表示させせます。**

2 **「送る」→「3.5インチFD」を選択します。**

操作後、フロッピーディスクにファイルがコピーされます。

> メモ
>
> 本製品で使用できるフロッピーディスクドライブに関する情報は、弊社ホームページ「http://www.sotec.co.jp/」をご参照ください。

> メモ
>
> **2HDと2DD**
>
> 2HDは「両面高密度倍トラックタイプ」、2DDは「両面倍密度倍トラックタイプ」の略です。2HDには1.44MBの、2DDには720KBのディスク容量があります。

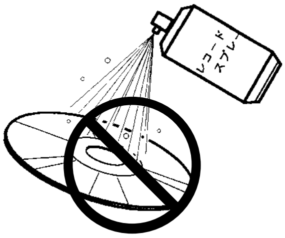
6 CD-ROMを使ってみよう

ここでは、CD-ROMを使う方法について説明します。

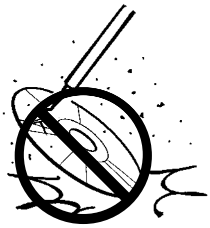
注 意

CD-ROMを使うときの注意

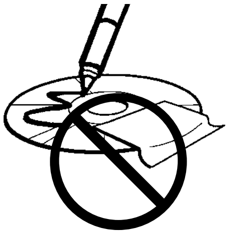
CD-ROMドライブやCD-ROMディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、パソコンの電源をOFFにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。



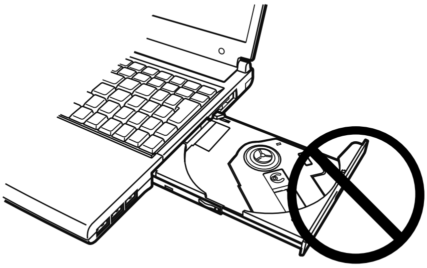
清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。



強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。

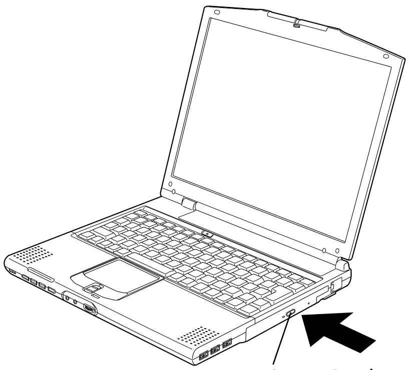


記録面にラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。



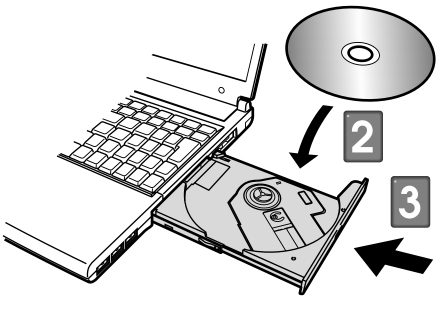
トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。

CD-ROMディスクの出し入れ



1 パソコン本体の電源がONになっているのを確認してから、CDイジェクトボタンを押します。

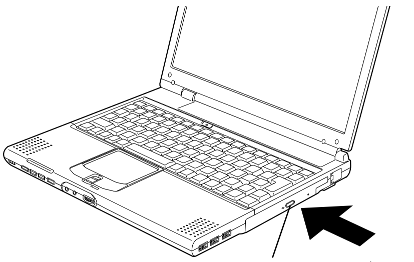
トレイが少し飛び出ます。



2 CD-ROMディスクの記録面をトレイ側に向けて、トレイにCD-ROMディスクをセットします。

チェック
CD-ROMディスクはトレイの中心部で固定します。「カチッ」という音がするまで確実にCD-ROMディスクをトレイにセットしてください。

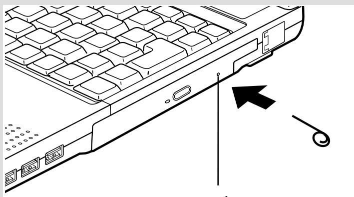
3 トレイを押し込み、CD-ROMドライブを閉じます。



4 CD-ROMディスクを取り出すときは、再度CDイジェクトボタンを押します。

トレイが少し飛び出てくるので、CD-ROMディスクを取り出します。

チェック
トレイが出てこない場合は・・・
CDイジェクトボタンを押してもトレイが出てこない場合、CDイジェクトボタンの右横にあるCD-ROMドライブ強制排出孔に、針金など(太さ1mm前後)を押し込んでください。トレイを手動で取り出すことができます。



メモ

CD-ROMディスクの規格について

現在市販されているCD-ROMディスクには次のような規格があり、本機ではこれらすべての規格を利用できます。

コンパクトディスク規格に準拠していない、著作権保護技術付音楽ディスクは動作、音質を保証できません。本製品での再生・録音については、音楽ディスクのパッケージ表示をご参照ください。

■CD-DA、CD-Extra（エキストラ）

CD-DAは音楽用のCDです。音楽CDをCD-ROMドライブにセットし、Windows XPの「Windows Media Player」を起動して音楽を聴きます。

CD-Extraは音楽用CDですが、パソコン用のソフトや、画像、音声ファイルなどのデータも記録されています。

■CD-ROM XA

パソコンのアプリケーションソフトや、画像、音声ファイルなど大容量のデータが記録されています。読み出しだけで記録はできません。現在使われている多くのCD-ROMは、この規格にもとづいています。

■Video CD

MPEG-1方式の動画を記録する規格です。Windows Media Playerで再生します。

■Photo（フォト） CD

1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録できる規格です。記録は専門の業者に依頼しなければなりません。また、Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

■CD-R

一度だけ任意のデータの書き込みが可能なCDです。書き込めるデータ量はメディアによりさまざまです。

■CD-RW

何度でも任意でデータの書き換えが可能なCDです。書き込めるデータ量はメディアによりさまざまです。

注 意

音楽CDの再生上のご注意

ディスクレーベル面に COMPACT disc DIGITAL AUDIO マークの入ったものなどJIS規格に合致したディスクをご使用ください。

CD規格外のディスクを再生した場合、正常な再生の保証は致しかねますので、ご了承ください。

7 音量を調整する

本機には、サウンド機能が搭載されており、音声を入出力する端子やスピーカが用意されています。ここではそれらを利用するときの、音量の調整方法を説明します。

内蔵スピーカについて

本製品にはステレオスピーカが内蔵されています。スピーカからは3種類の音源から音声を出力できます。それぞれの音源は、Windowsの「ボリュームコントロール」で個別に音量の調整やミキシングができます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている”ビープ音”を発生する音声です。
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、およびFMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	マイク端子に接続されたマイクからの音声です。

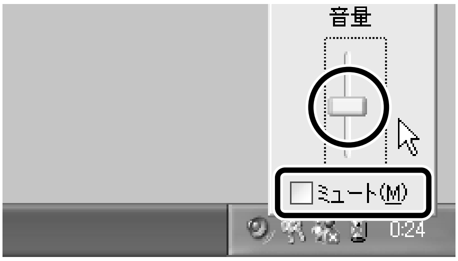
スピーカの音量を調整する

スピーカの音量は次のように調整します。

●Windowsでスピーカの音量を調整する



1 タスクバーの アイコンを左クリックします。



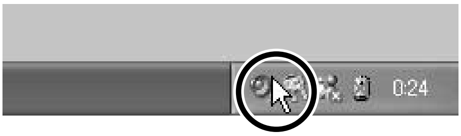
2 つまみを上下にドラッグして音量を調整します。

メモ
「ミュート」をチェックすると音声が消えます。

メモ
タスクバーに[スピーカ]アイコンを表示させるには
[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[サウンド、音色、およびオーディオデバイス]→[サウンドとオーディオデバイス]を選択すると、【サウンドとオーディオデバイスのプロパティ】ダイアログが表示されます。
[音量]のタブから「タスクバーに音量アイコンを配置する」をチェックし、「適用」ボタンを選択してください。



Windowsで左右のバランスや音源ごとに調整する



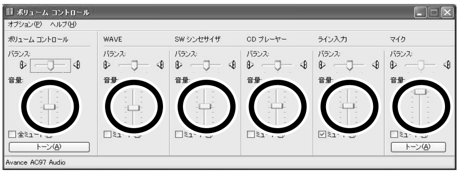
1 **タスクバーの アイコンを右クリックします。**

メニューが表示されます。



2 **「ボリュームコントロールを開く」をクリックします。**

【ボリュームのプロパティ】ダイアログが表示されます。



3 **各音量のつまみをドラッグして調整します。**

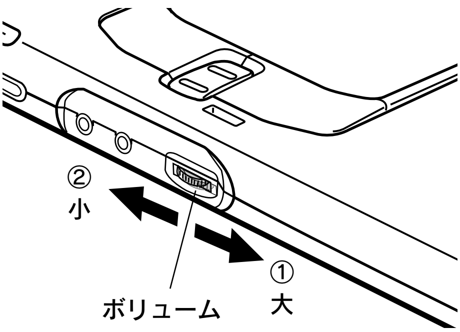
メモ

【サウンドとオーディオデバイスのプロパティ】ダイアログの[スピーカー音量]タブ画面で[スピーカーの音量]ボタンをクリックすると、ステレオスピーカの左右の音量を別々に調整できます。



ボリュームを使って調整する

本機前面にあるボリュームで音量を調整できます。

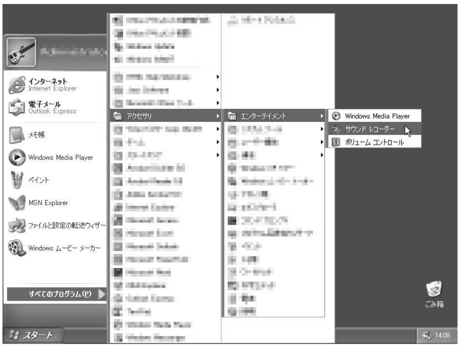


①右に回す
内蔵スピーカから出力される音声が大きくなります。

②左に回す
内蔵スピーカから出力される音声が小さくなります。

録音をする

オーディオ機器などから本機に入力した音声を録音するときは、Windows XPの「サウンドレコーダー」を使用します。録音した音声はファイルとして、本機のハードディスクに保存できます。



1 **「スタート」ボタン→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エンターテイメント]→[サウンドレコーダー]の順に選択します。**

【サウンドレコーダー】ダイアログが表示されます。



2 **●ボタンをクリックします。**

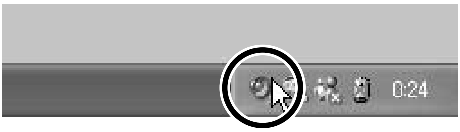
録音が始まります。

3 **■ボタンをクリックします。**

録音を停止します。

●録音の音量を調整するには

本機に入力される音量が小さすぎたり、大きすぎたりするときは、Windows XPのボリュームコントロールで調整します。

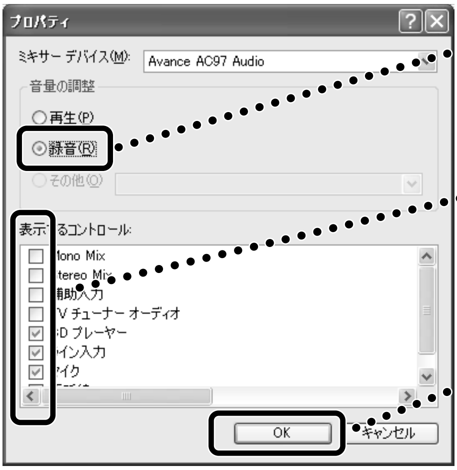


1 **タスクバー上にある アイコンをダブルクリックします。**

【ボリュームコントロール】ウィンドウが表示されます。



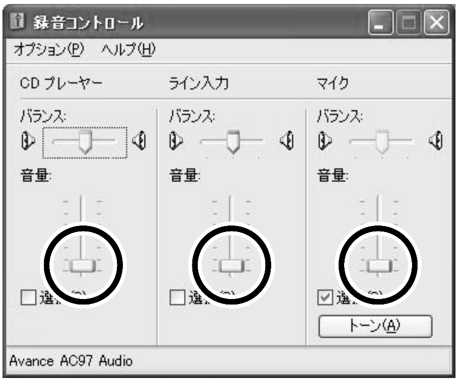
2 **メニューバーの[オプション]から、[プロパティ]を選択します。**



3 「録音」を選択します。

4 音量を調整するデバイスにチェックマークをつけます。

5 [OK]ボタンをクリックします。

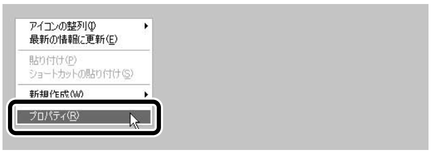


6 選択したデバイスのつまみを上下にドラッグして、音量を調整します。

8 画面の解像度を調整する

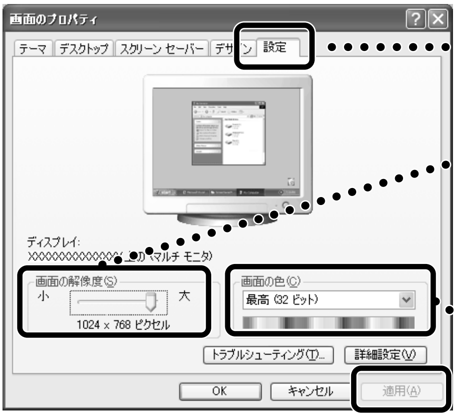
ディスプレイの解像度を変更して、より広い領域でWindowsを表示したり、フォントの大きさを変更して、文字をより見やすく表示できます。ここでは解像度やフォントの大きさといった、画面の設定の変更方法について説明します。

●解像度や色数を変更する場合



1 デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。



2 [設定]タブを選択します。

3 を左右にスライドさせ、画面の解像度を選択します。

初期設定は「1024×768ピクセル」です。

4 ボタンをクリックし、画面の色(表示する色数)を選択します。

初期設定は「最高(32ビット)」です。

5 [適用]ボタンをクリックします。

変更を確認するダイアログボックスが表示されます。

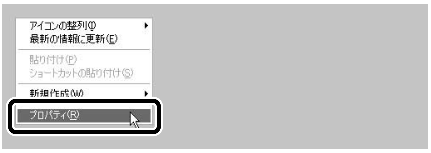


6 [はい]ボタンをクリックします。

メモ

画面の表示性能をUPさせるには・・・
画面の表示性能は、ビデオメモリのサイズに比例します。
したがいまして、ビデオメモリのサイズを増やすと、画面の表示性能もUPします。
(ご購入時のビデオメモリのサイズは8Mバイトに設定されています)
ビデオメモリのサイズを変更する方法は、電子マニュアル（デスクトップ上の『電子マニュアル』アイコンをクリックすると起動します）をご参照ください。
ただし、ビデオメモリは、メインメモリから割り当てられますので、ビデオメモリのサイズを増やす場合、メインメモリも増設することをおすすめします。(☞86～89ページ)

◯フォントサイズを変更する場合



1 デスクトップ上で右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ]を選択します。

【画面のプロパティ】ダイアログが表示されます。



2 [デザイン]タブをクリックします。

3 をクリックし、フォントの大きさを選択します。

4 [適用]ボタンをクリックします。

しばらくするとフォントサイズが変更されます。

チェック

アプリケーションソフトによっては、インストール時などに自動的に画面設定が変更される場合があります。アプリケーションソフトに適した画面設定の変更方法については、アプリケーションソフトの取扱説明書をよくお読みください。

9 省電力機能を使用する

本機での作業を一時的に中断したいときは、省電力機能を使用すると便利です。省電力機能を上手に使うと、中断時の作業状態を保存したまま、本機の消費電力を節約できます。

省電力機能の種類

本製品には 2種類の省電力機能があります。
使用状況に応じてご利用ください。

●スタンバイ

CPU、ハードディスクドライブ、ディスプレイなどの動作を一時的に止め、電力の消費を最小にします。内部スタンバイ電源で状態を保持しています。電源スイッチ、キーボードまたはクイックスタートボタンを押すと元の状態にもどります。
少しの間席をはずすときなど、電源の消費を抑えるのに役立ちます。

●休止状態

作業中のアプリケーションの状態やデータを、ハードディスクに保存して電源を完全にOFFにします。
電源がOFFになるため、電源をほとんど消費しません。
電源スイッチを押すと、作業を中断する前の状態で立ち上がります。
ある程度の時間作業を中断するが、次回起動時にはすぐに作業の続きがしたいときに役立ちます。

注意
スタンバイ・休止状態中の注意事項
・周辺機器やメモリなどの取り付け・取り外しをしないでください。故障・感電の恐れがあります。
・スタンバイ・休止状態に入る前に、必ず使用中のデータを保存してください。

チェック
休止状態を使用する前に・・・
休止状態を使用する前に、休止状態が有効に設定されているか、ご確認ください。
①[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。
②[休止状態]タブをクリックして、「休止状態を有効にする」にチェックが入っていることをご確認ください。



スタンバイ・休止状態に入る

スタンバイ・休止状態に入るには次の5つの方法があります。

- **「スタート」メニューから入る**
- **電源スイッチで入る**
- **キーボードから入る**
- **自動的に入る**
- **液晶ディスプレイを閉じてから入る**

「スタート」メニューからスタンバイ・休止状態に入る



1 [スタート]ボタン→[終了オプション]をクリックします。

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。



2 (スタンバイに入る場合)
[スタンバイ]をクリックします。



(休止状態に入る場合)
Shiftキーを押しながら、[休止状態]をクリックします。

これでスタンバイ・休止状態に入ります。
スタンバイ・休止状態から元の状態に戻すには、「スタンバイ・休止状態から元に戻す」をご参照ください。(☞ 66ページ)

電源スイッチでスタンバイ・休止状態に入る

1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[電源オプション]の順に選択します。**

【電源オプションのプロパティ】ダイアログが表示されます。



2 **[詳細設定]タブをクリックします。**

3 **「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」または「休止状態」に設定します。**

4 **[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。**

これで電源スイッチを押すと、スタンバイ・休止状態に入ります。
スタンバイ・休止状態から元の状態に戻すには、「スタンバイ・休止状態から元に戻す」をご参照ください。(☞ 66ページ)

キーボードからスタンバイ・休止状態に入る



1 **「電源スイッチでスタンバイ・休止状態に入る」の1、2を行います。**

2 **「電源ボタン」欄の「コンピュータのスリープボタンを押したとき」を「スタンバイ」または「休止状態」に設定します。**

3 **[適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。**

これでキーボードの[Fn]キーと[F4]キーを同時に押すと、スタンバイ・休止状態に入ります。
スタンバイ・休止状態から元の状態に戻すには、「スタンバイ・休止状態から元に戻す」をご参照ください。(☞ 66ページ)

自動的にスタンバイ・休止状態に入る



1 「電源スイッチでスタンバイ・休止状態に入る」の1、2を行います。

2 [電源設定]タブをクリックします。

3 「電源設定」欄を「自宅または会社のデスク」に設定します。

4 「システムスタンバイ」または「システム休止状態」欄に、自動的にスタンバイ・休止状態に入るまでの時間を設定します。

5 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これでスタンバイ・休止状態に入ります。
スタンバイ・休止状態から元の状態に戻すには、「スタンバイ・休止状態から元に戻す」をご参照ください。(☞ 66ページ)

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ・休止状態に入る



1 「電源スイッチでスタンバイ・休止状態に入る」の1、2を行います。

2 [詳細設定]タブをクリックします。

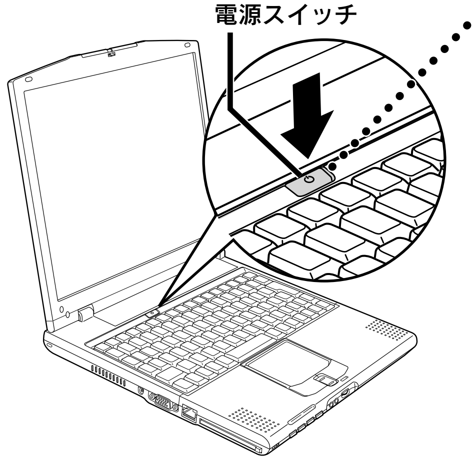
3 「電源ボタン」欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」または「休止状態」に設定します。

4 [適用]ボタンをクリックしてから、[OK]ボタンをクリックします。

これで液晶ディスプレイを閉じると、スタンバイ・休止状態に入ります。
スタンバイ・休止状態から元の状態に戻すには、「スタンバイ・休止状態から元に戻す」をご参照ください。(☞ 66ページ)

スタンバイ・休止状態から元に戻す

スタンバイ・休止状態から元の状態に戻すには、本機の電源スイッチを押し、ユーザ名を選択します。



1 **本機の電源スイッチを押します。**

ログイン画面が表示されます。

> **メモ** スタンバイ中は、キーボードもしくはクイックスタートボタンのいずれかのボタンを押しても、元の状態に戻すことができます。



2 **使用するユーザをクリックします。**

Windowsのデスクトップ画面が表示されます。

STEP3

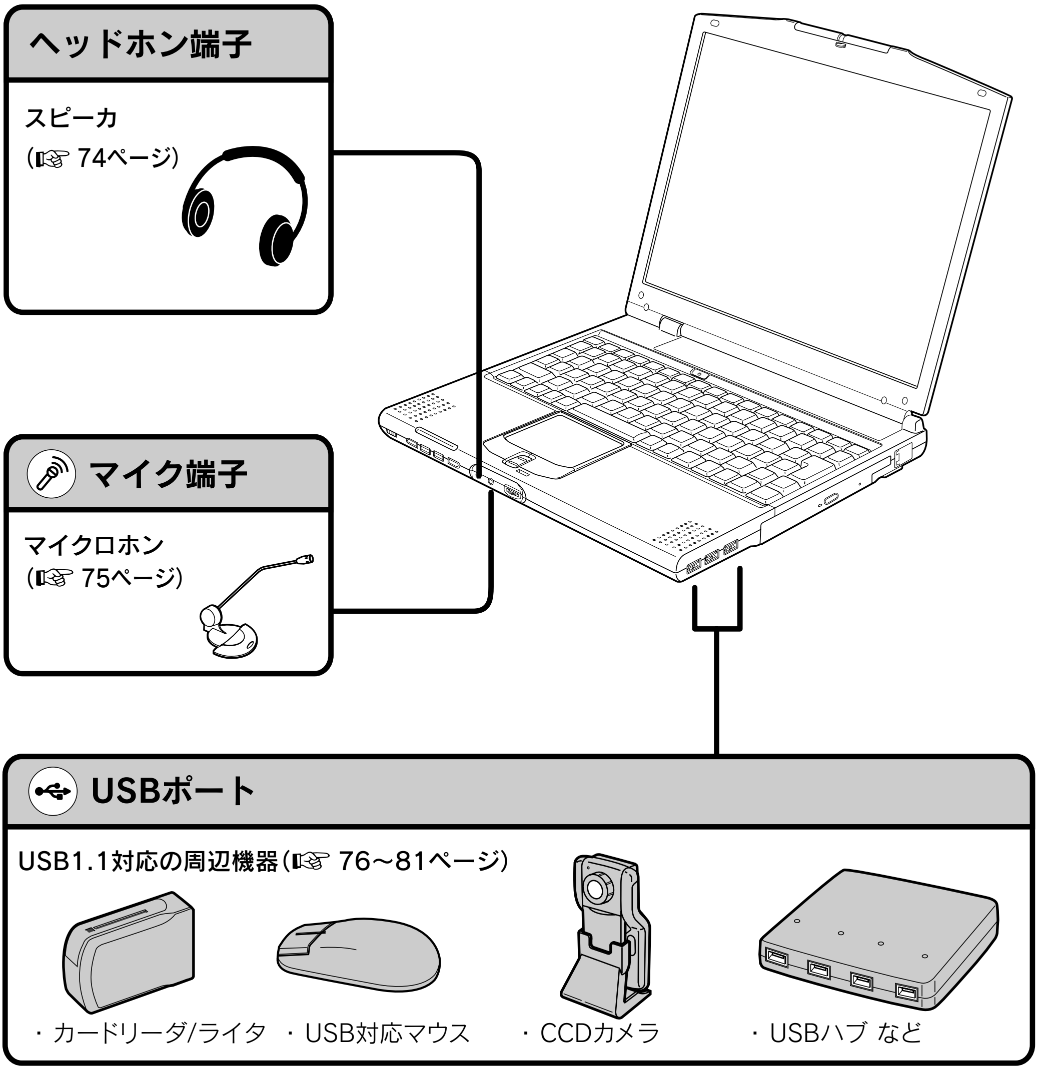
周辺機器を使いこなす

プリンタやスキャナなど、WinBookと接続できる周辺機器の紹介と、接続の方法や注意事項について説明しています。
さまざまな周辺機器と接続することで、WinBookをより充実して使うことができます。ぜひ、お読みください。

1 使用できる周辺機器

本機には、さまざまな周辺機器が接続できます。次にその一例を紹介します。

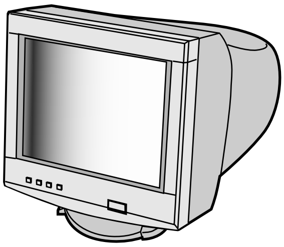
前面＆右側面

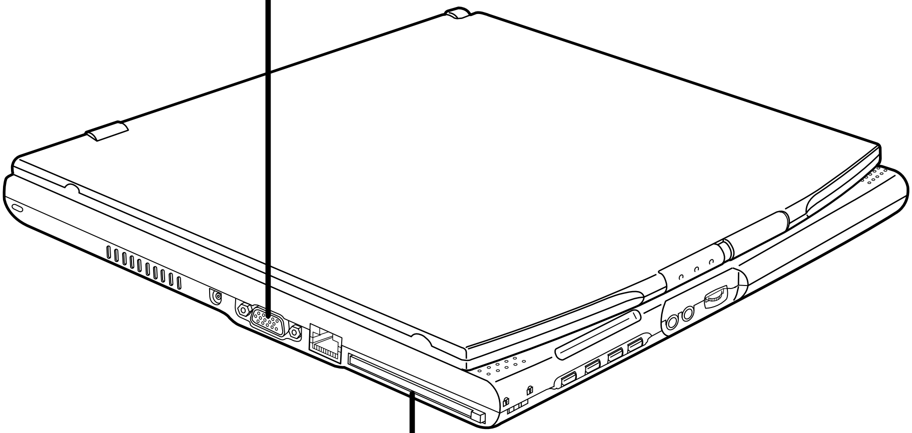


左側面

アナログCRTポート

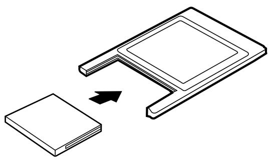
外部ディスプレイ
（☞ 90ページ）



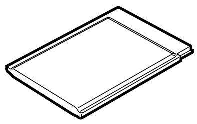


PCカードスロット

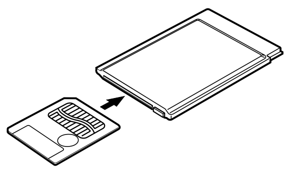
PCカード（☞ 82〜85ページ）



・コンパクトフラッシュ
（カードアダプタが必要）



・フラッシュメモリーカード



・スマートメディア
（カードアダプタが必要）

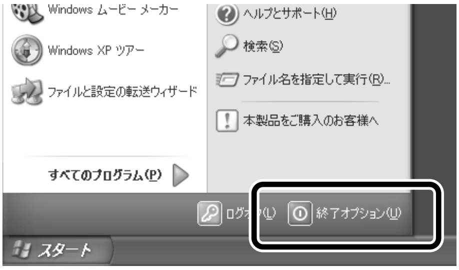
2 周辺機器を取り付ける前に

ここでは周辺機器を取り付ける前に、まず確認したり、作業しなければならないことを説明します。

取り付けは電源をOFFにしてから

ケーブル類や周辺機器を取り付けるときは、本機の電源をOFFにして、ACアダプタとバッテリパックを取り外します。ACアダプタとバッテリパックが接続されたまま周辺機器を取り付けると、本機を壊したり、感電する恐れがあります。

> メモ　PCカード、USB対応の機器は、パソコンの電源をONにしたまま、取り付けや取り外しができます。



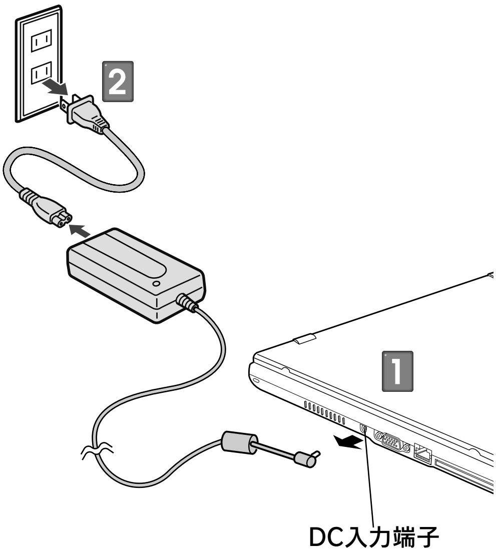
1　[スタート]ボタン→[終了オプション]を選択します。

【コンピュータの電源を切る】ダイアログが表示されます。



2　[電源を切る]をクリックします。

電源がOFFになります。



3　ACアダプタを取り外します。

4　周辺機器を取り付けます。

> 注意　メモリなどを取り付けたり、取り外したりするときは、金属のへりでケガをしないよう、手袋をして作業をするなど十分に気を付けてください。

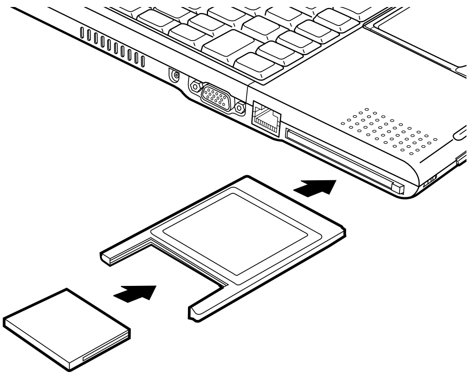
取り付け時の注意事項

体の静電気を取り除いてください



基板がむき出しになっているメモリなどは、静電気に弱く、帯電した手で触ると壊れてしまう恐れがあります。これらの機器を取り付ける前には、ドアのノブなど、身近な金属に触れて、帯電されている静電気を取り除いてください。

ユーザーズガイドをよく読んでください



周辺機器などの取り外しや、取り付けを間違うと、機器を壊してしまう恐れがあります。周辺機器を取り付ける前には本書をよくお読みください。

周辺機器に付属の取扱説明書をよく読んでください



周辺機器に付属の取扱説明書には、取り付け方法や、取り付けた後に必要となるソフトウェアやハードウェアの設定方法が詳しく書かれています。
周辺機器を取り付ける前には、必ず周辺機器の取扱説明書をよく読み、必要な機器、および必要な設定ファイル(デバイスドライバなど)を理解し、これから始める拡張の作業に備えましょう。

プラグアンドプレイについて

Windows XPには、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使用できる状態に設定する「プラグアンドプレイ」という機能があります。
プラグアンドプレイを実現するには、周辺機器に対応したデバイスドライバがWindows側で用意されている必要があります。
用意されていない場合は、Windowsのウィザード機能を使って、デバイスドライバをWindowsにインストールします。

●対応したデバイスドライバがすでにWindowsにある場合

周辺機器に対応したデバイスドライバが、すでにWindows側で用意されている場合は、周辺機器を取り付けるだけで、すぐに使える状態になります。



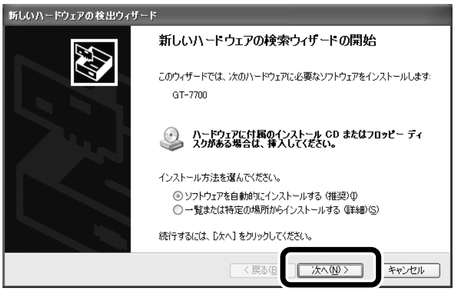
1 デスクトップ画面右下のタスクバーに、「新しいハードウェアが見つかりました」と吹き出しが表示されます。

これで、周辺機器が使えるようになります。

●対応したデバイスドライバがWindowsにない場合

周辺機器に対応したデバイスドライバがWindowsにない場合、周辺機器に付属のCD-ROMディスクなどに収録されているデバイスドライバをWindowsにインストールします。

> **チェック** プラグアンドプレイに対応した周辺機器でも、場合によっては、設定が自動で行われない場合があります。
> (☞ 別冊「困ったときには…」)



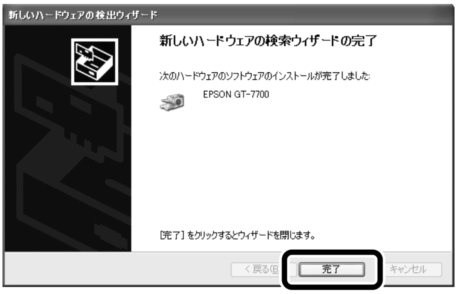
1 周辺機器を取り付けた後に、電源をONにします。

【新しいハードウェアの検索ウィザードの開始】ダイアログが表示されます。

2 [次へ]ボタンをクリックします。

3 **表示される指示に従って操作を行います。**

デバイスドライバが正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、設定は終了です。



4 **[完了]ボタンをクリックします。**

これで、設定は無事終了しました。

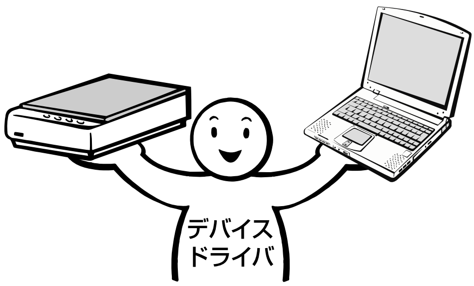
チェック

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合

プラグアンドプレイに対応していない周辺機器の場合、デバイスドライバの組み込みや、リソースの設定は自分で行う必要があります。また、周辺機器側のディップスイッチなどを変更する必要があります。周辺機器の取扱説明書などをよく読み、設定を行ってください。

メモ

デバイスドライバとは



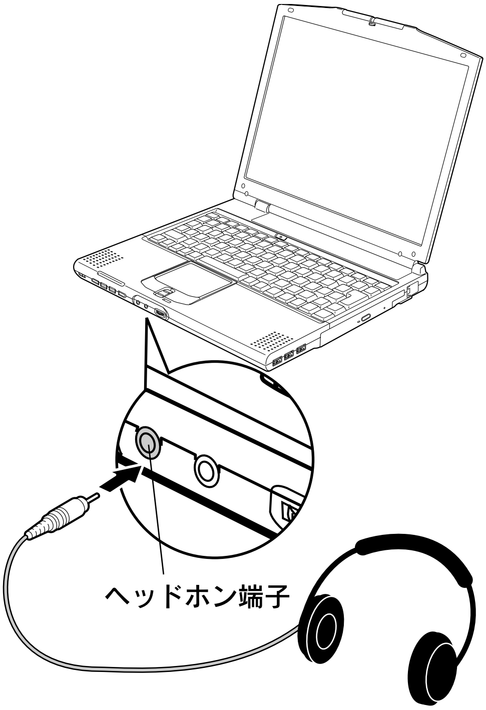
周辺機器を使うときは、デバイスドライバという専用ソフトウェアが必要になる場合があります。デバイスドライバは、パソコンが周辺機器をコントロールするときに使う大切なソフトウェアです。
デバイスドライバは、あらかじめ本機のWindows XPに付属されているものと、周辺機器に付属のもの(フロッピーディスクやCD-ROMディスクで提供されています)があります。また、周辺機器メーカのホームページから最新のものを入手することもできます。
最新のデバイスドライバを入手することで、周辺機器の機能を最大限に引き出すことができます。

3 AV機器と接続する

ここでは本製品と接続できるAV機器の紹介と接続方法を説明します。

ヘッドホンと接続する

市販のヘッドホンを使用すると、スピーカから音声を出力せずにヘッドホンから出力できます。

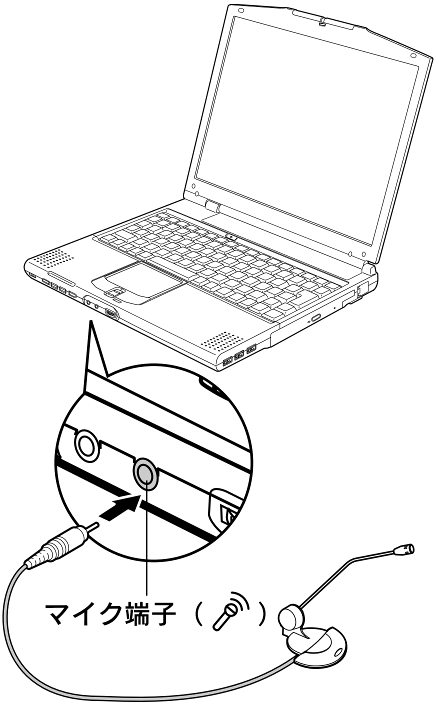


1 本機前面のヘッドホン端子に市販のヘッドホンのケーブルを接続します。

> メモ
> ヘッドホンはミニプラグ付きヘッドホンを、お近くの電器店でお求めください。

マイクロホンと接続する

市販のマイクロホンを接続して、マイクロホンから音声を録音できます。



1 マイクロホンのプラグを本機前面のマイク端子( )に接続します。

> メモ
> マイクロホンはモノラルタイプのミニプラグ付きマイクロホンを、電器店などで購入してください。

> メモ
> **ハウリングの防止方法**
> スピーカにマイクロホンを近づけると、スピーカとマイクロホンが共振し、キーンという音が出ることがあります。これをハウリングといいます。ハウリングは、マイクロホンをスピーカから遠ざけるか、入力レベルを小さくする(ボリュームコントロールで調整)ことで防ぐことができます。

4 USB対応の周辺機器を使う

USBポートには、さまざまなUSB機器を接続して利用することができます。ここでは、USB機器を本機で使用するための準備作業について説明します。

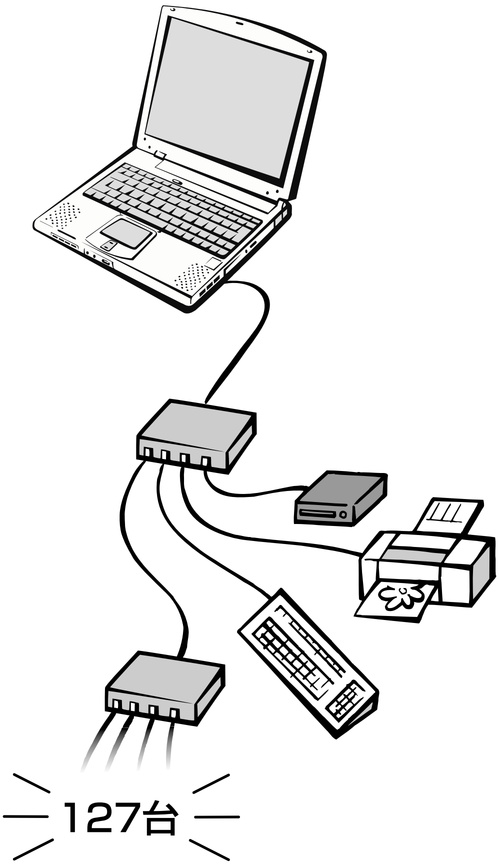
USB(ユーエスビー)とは

USBとは、Universal Serial Bus(ユニバーサル・シリアル・バス)の略で、パソコンと周辺機器を接続するためのインタフェース規格です。USBは取り扱いが簡単で、さまざまなUSB対応の周辺機器が発売されています。
USBは次のような特長があります。

・**ホットプラグ対応**
パソコンの電源がONの状態でも、自由にUSBケーブルの抜き差しが可能です。接続後も再起動することなく､そのままUSB機器を使用できます。

・**パソコンから電源を供給可能**
USB機器は、最大5V、500mAまでの電源をパソコンから取り込むことができます。消費電力の少ないUSB機器の場合は、USB機器本体にACケーブルやACアダプタを必要としません。

・**多くの機器を接続可能**
USBは、「USBハブ」という機器を使用して、パソコン側の1つのUSBポートを分岐させることができます。これにより、パソコンに装備されているUSBポートの数以上のUSB機器を接続することが可能です。規格上、パソコン1台あたりに最大127台のUSB機器を接続できます。



チェック
本機のUSBポートは、USB1.1規格に対応しています。USB2.0規格に対応したUSB機器も使用できますが、転送速度等の使用環境はUSB1.1規格に準じます。

USB機器を接続する手順

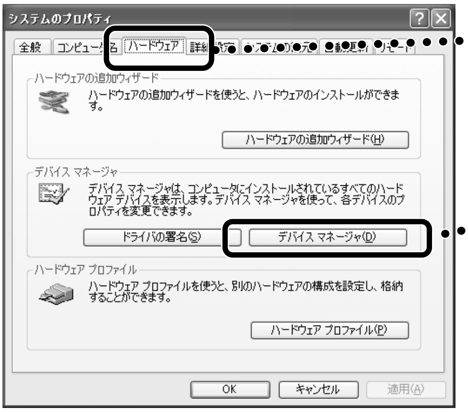
ここでは、USB対応のスキャナを例に、USB機器を本機に接続して使用するまでの手順を説明します。

●USBコントローラを確認する

Windows XPを起動して、USBポートそのものをコントロールするためのデバイスドライバが有効になっているかを確認します。

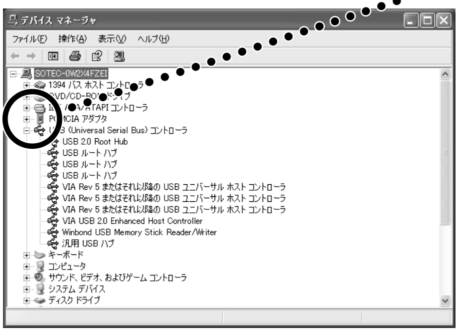
1 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[システム]の順に選択します。**

【システムのプロパティ】ダイアログが表示されます。



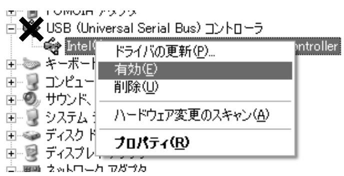
2 **[ハードウェア]タブをクリックします。**

3 **[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。**



4 **[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]の ⊞ の部分をクリックし、⊟ に変更します。**

のマークに×がついていないか確認します。

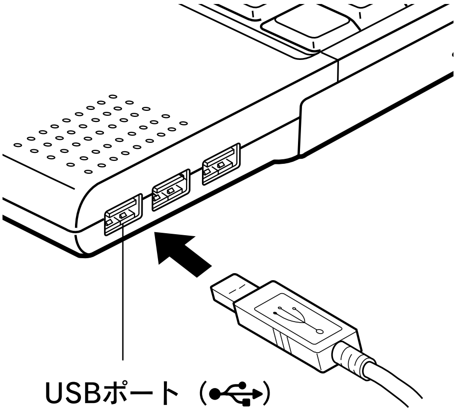
> **メモ**
>
> **USBポートが使用できない状態の場合は**
>
> ① ×印がついているUSBポートを選択し、右クリックします。
>
> ② [有効]をクリックします。
>
> 
>
>
> これで、USBポートが使用できる状態になります。

USB機器を接続する

本機の電源をONにした状態で、USB対応の周辺機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、USB機器をすぐに使い始めることができます。

チェック

ケーブルを差し込む前に、デバイスドライバのインストールが必要なUSB機器があります。USB機器に付属の取扱説明書をよく読んで、USB機器を接続してください。



USBポート（ ）

1 本機のUSBポート（ ）に、USB機器のケーブルを差し込みます。

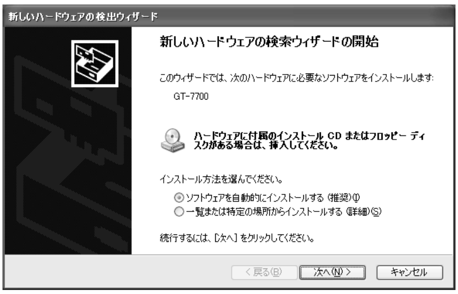
本機には、右側面に3つのUSBポートを用意しています。どのUSBポートを使用しても構いません。ケーブルには差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。

メモ

USBポートが足りないときは

USBポートの数が足りないときは、市販のUSBハブを接続することで、USBポートの数を増やすことができます。

☞「複数のUSB機器を接続する」(81ページ)



USB機器を接続後、しばらく待つと、自動的に画面の表示が切り替わり、【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログが表示されます。表示されないときは、USBポートからコネクタを一度抜き、3秒以上時間をおいてから、再度差し込んでみてください。

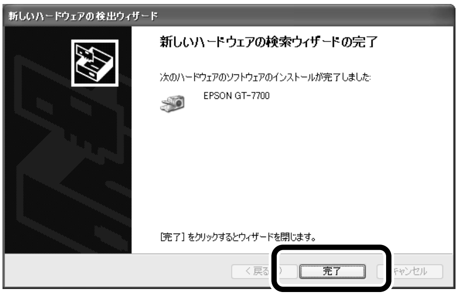
しばらくすると、自動的に必要なデバイスドライバを読み込み始めます。

2 **表示される指示に従って操作します。**

メモ 以上の方法で画面の表示が切り替わらないときは、Windowsを再起動させ、再度USB機器を接続してください。

チェック USB機器に、Windows XP対応のデバイスドライバが付属されていない場合、USB機器をWindows XPで使うための専用デバイスドライバが別途必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書を読むか、USB機器販売メーカにお問い合わせください。

デバイスのインストールが終了したことを示すメッセージが表示されれば、設定は終了です。



3 **[完了]ボタンをクリックします。**

USB機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

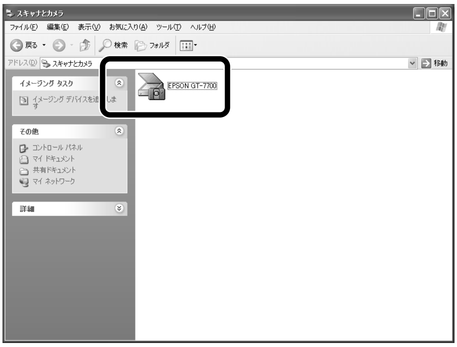
USB機器は、一度接続して設定が終了すれば、次回からはUSBポートにコネクタを差し込むだけで、すぐに機器が使用できるようになります。このとき【新しいハードウェアの検索ウィザード】ダイアログは表示されません。

チェック それぞれのUSBポートごとにUSB機器が管理されるため、前回とは異なるUSBポートにUSB機器を接続すると【新しいハードウェアの検索ウィザード】が表示されることがあります。その場合はメッセージに従って操作してください。

●正しく接続できたか確認する

接続したUSB機器が、正しく認識されているか確認します。

■マイコンピュータで確認する

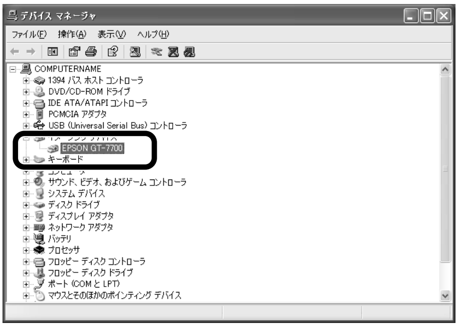


1 新しく接続されたUSB機器のアイコンが表示されていることを確認します。

接続したUSB機器によって、接続を確認する方法は異なります。

例として接続したスキャナは、[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[プリンタとその他のハードウェア]→[スキャナとカメラ]にアイコンが追加されていることで確認できます。

■デバイスマネージャで確認する



1 接続したUSB機器が表示されていることを確認します。

[スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[パフォーマンスとメンテナンス]→[システム]を選択し、[ハードウェア]タブ画面から【デバイスマネージャ】ダイアログを表示させて、接続したUSB対応機器が登録されているか確認します。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

チェック

USB機器によっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。USB機器に付属の取扱説明書をお読みください。

複数のUSB機器を接続する

市販のUSBハブを使えば、1つのUSBポートを複数のUSBポートに分岐して増やすことができます。
USBハブも含めて最大127台(パソコン1台あたり)までの機器を接続できます。
ここでは、USBハブを使用し、複数のUSB機器を接続する方法について説明します。

バスパワーとセルフパワーについて

USB機器は、機器自体が動作するために必要な電流の大きさによって、次のタイプに分かれます。
USBハブを使う場合は、お持ちのUSB機器がどのタイプかを確認することが必要です。

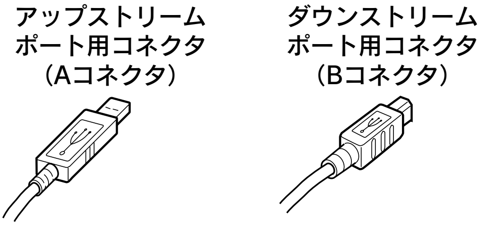
■バスパワー型

機器自体では電源を持たず、動作に必要な電流をパソコンから消費して動作します。
消費電流は100mA以下です。

■セルフパワー型

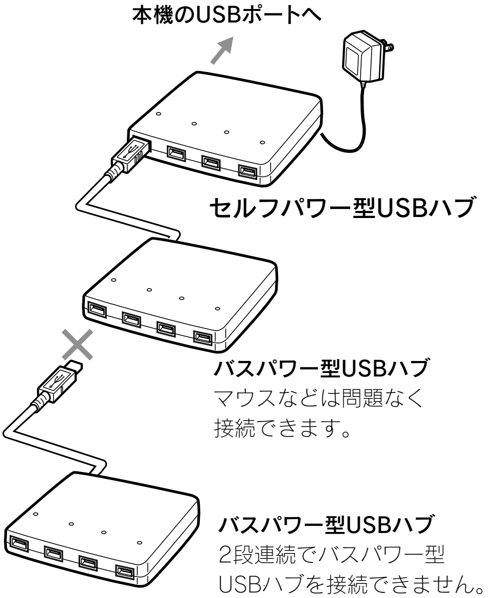
USB機器自体の消費電流が多く、パソコンからの電流では動作できないため、USB機器にACアダプタの接続が必要です。

アップストリームとダウンストリームのコネクタについて



通常のUSBハブには、パソコンやセルフパワー型のUSBハブから電流を受け取るためのポート(アップストリームポートという)と、USB機器を接続するためのポート(ダウンストリームポートという)があります。それぞれのポートに接続するUSBケーブルのコネクタ形状は、左のイラストのように形状が異なります。

USBハブを使った接続例



セルフパワー型の次に、バスパワー型の機器というように交互に接続できます。
バスパワー型の機器を2段連続で接続すると、接続するUSB機器によっては、使用できないものがありますので、注意してください。
USBハブの詳しい使用方法は、USBハブの取扱説明書をお読みください。

5 PCカードを使う

PCカードスロットには、市販のPCカードを差し込んで使用することができます。ここではPCカードの接続方法について説明します。

PCカードとは

PCカードとは、パソコンをはじめとするコンピュータで使用できる情報メディアのことです。クレジットカードと同サイズ(85.6mm×54.0mm)で、メモリやモデム、LANなど、さまざまな用途で使用できます。

カード規格について

PC Card Standardは、ノートタイプのコンピュータに使用するICカードを、コンピュータのメーカが異なっても、共通で使用できるように定められた統一規格です。規格統一されたカードは、一般に「PCカード」と呼ばれています。
PCカードスロットに様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。
カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があります。

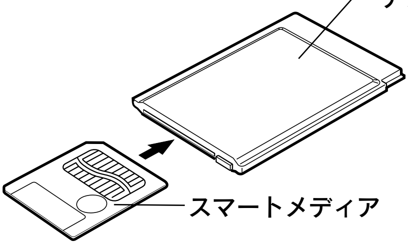
チェック
PCカードを使うには、本製品に、PCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。デバイスドライバは、あらかじめWindowsで用意されているものを使用する場合と、PCカードに付属のものを使用する場合があります。どちらのデバイスドライバを使用するかは、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

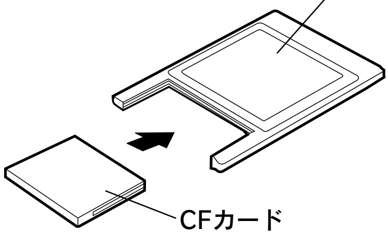
CardBus規格について

CardBusとはPCカードスロットと互換性を持ちながらPCIバスに対応しているスロットのことで、高速なデータ転送が可能です。本製品のPCカードスロットはCardBusをサポートしています。

カードサイズについて

PCカードには、現在、TYPE I (厚さ3.3mm)、TYPE II (厚さ5.0mm)、TYPE III (厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。
本製品では、TYPE II のカードを1枚装着することができます。
スマートメディアやCFカードを装着する場合は、別売のアダプタを使用してください。



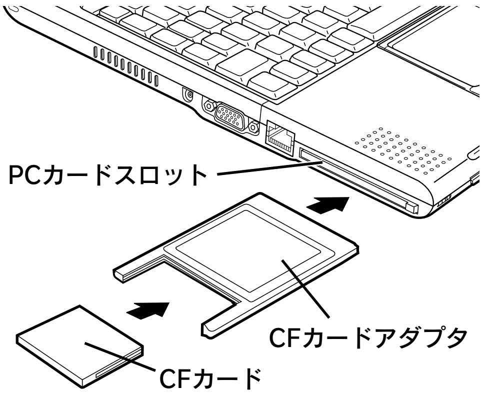


PCカードの差し込み

ここでは、デジタルカメラの画像の記憶媒体として使用されるコンパクトフラッシュを例に、本機に差し込んで使用するまでの手順を説明します。

●コンパクトフラッシュを使ってみる

本機の電源をONにした状態で、PCカードを差し込むと、自動的に設定が始まります。設定が終了すると、PCカードを使い始めることができます。



1 本機のPCカードスロットに、PCカードを差し込みます。

ここでは、コンパクトフラッシュアダプタに差し込んだコンパクトフラッシュをPCカードと呼びます。

チェック
PCカードは差し込む向きがあります。無理に差し込もうとせず、方向を確認して正しく差し込んでください。差し込む方向については、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

しばらくすると、自動的に認識されます。コンパクトフラッシュに画像などが保存されている場合は、スライドショーなどを自動的に行う機能が働きます。



2 実行させたい機能を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

機能を実行させたくない場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

●正しく認識できたか確認する

差し込んだPCカードが、正しく認識されているかどうかを確認します。

●マイコンピュータで確認する

例として差し込んだPCカードは、ファイルを保存するためのハードディスクのような機器なので、【マイコンピュータ】の中に新しいハードディスクのアイコンが追加されていることで確認できます。

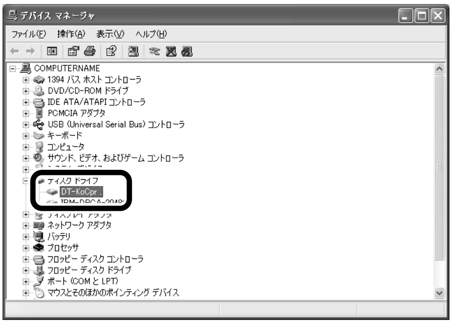


1 **新しく接続された機器がアイコンとして表示されているのを確認します。**

●デバイスマネージャで確認する

コンパクトフラッシュは、「マイコンピュータ」に追加されたアイコンで確認できますが、差し込んだPCカードの種類によって、確認の方法は異なります。

一般的に、[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックし、[ハードウェア]タブの画面から、【デバイスマネージャ】ウィンドウを表示させて、差し込んだPCカードが登録されていれば、正しく認識されています。詳しくは、PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。



1 **差し込んだPCカードが表示されます。**

> **チェック**
> PCカードによっては、接続後、さらに別の設定を行うものがあります。PCカードに付属の取扱説明書をお読みください。

●ファイルをコピーしてみる



ハードディスクとして認識されたコンパクトフラッシュやスマートメディア内のファイルは、そのファイルをドラッグアンドドロップすることで、ハードディスクや他のディスクにコピーできます。

PCカードの取り出し

PCカードへのアクセス中に、本機からPCカードを取り出すと、スマートメディアやコンパクトフラッシュに記録されているデータが壊れる場合があります。取り外しは必ず次の手順で行ってください。

チェック
スタンバイ・休止状態でPCカードを取り出すと、本機が正常に動作しない恐れがあります。PCカードの取り出しは、スタンバイ・休止状態から元の状態に戻してから、必ず次の手順で取り出してください。

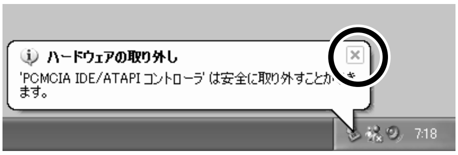


1 **デスクトップ右下(タスクバー)の のアイコンをクリックします。**



2 **「PCMCIA IDE/ATAPI コントローラードライブを安全に取り外します」を選択します。**

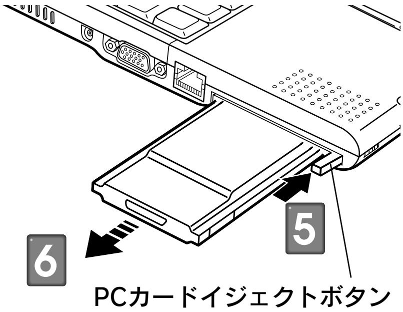
表示されるメッセージは、差し込んでいるPCカードによって異なります。



3 **次のようなダイアログが表示されたら ✕ ボタンをクリックします。**

4 **PCカードイジェクトボタンを押し込みます。**

PCカードイジェクトボタンが出てきます。



5 **PCカードイジェクトボタンをもう一度押し込みます。**

PCカードがPCカードスロットから少し出てきます。

6 **PCカードをゆっくりと引き抜きます。**

6 メモリの増設

複数のアプリケーションを使っているときなどに、処理速度が遅いと感じるようになってきたら、メモリを増やしてみましょう。ここでは、メモリについての基本的な知識と、メモリの増設方法について説明します。

メモリについて

メモリは、作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいように、メモリの総容量が大きいとアプリケーションの動作も快適になります。



本機で使用できるメモリ

本機には、増設用メモリモジュールが1個あります。メモリは、最大384Mバイト(オンボード(128Mバイト)+256Mバイトのメモリを1枚追加)まで増やすことができます。
本機で使用できるメモリは、次の仕様の144ピンSO-DIMMモジュールです。

メモリの種類	SDRAM
メモリの速度	133MHz(PC133)

注意
メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外したメモリは大切に保管してください。

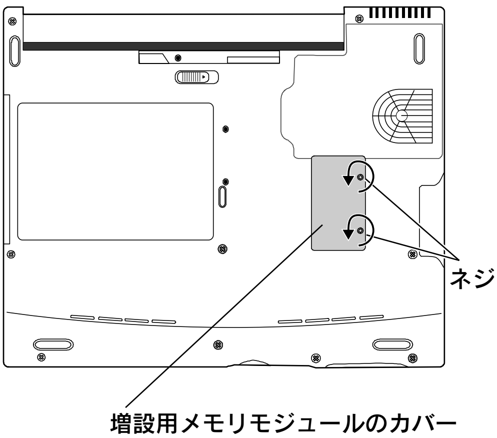
メモリの取り付け

ここでは、メモリの取り付け方法を説明します。

メモリを取り扱うときに気をつけること

注　意

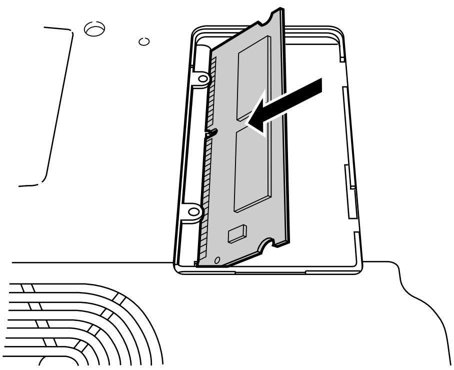
- 装着の前には、必ず本機の電源をOFFにしてください。
- 装着の前には、必ずバッテリパックとACアダプタを取り外してください。
- 本機には必ず弊社指定のメモリをお使いください。
- メモリは静電気に大変弱い部品です。静電気を帯びた物や人の手でメモリに触れると、メモリが壊れる恐れがあります。メモリを取り扱うときは、体の静電気を取り除いてください。(☞ 71ページ)
- メモリの端子部には触れないでください。端子部分に手を触れると、接触不良によりメモリが壊れる恐れがあります。



1 ディスプレイカバーを閉じ、本体を裏返しにします。

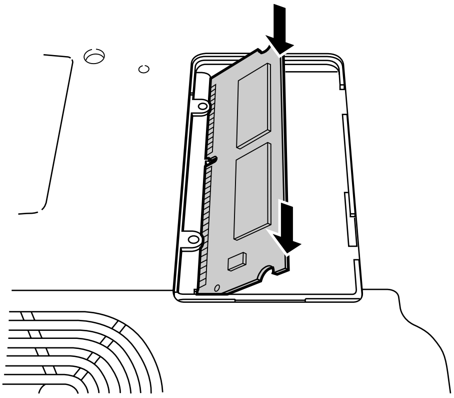
2 増設用メモリモジュールのカバーを固定している2つのネジを取り外します。

3 増設用メモリモジュールのカバーを取り外します。

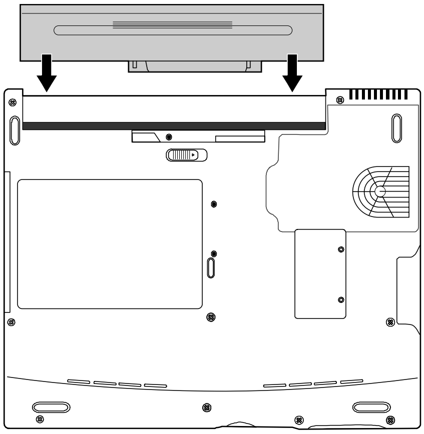


4 メモリを増設用メモリスロットのコネクタ部へ斜めに差し込みます。

チェック　メモリには差し込む向きがあります。向きを間違えないようにしてください。

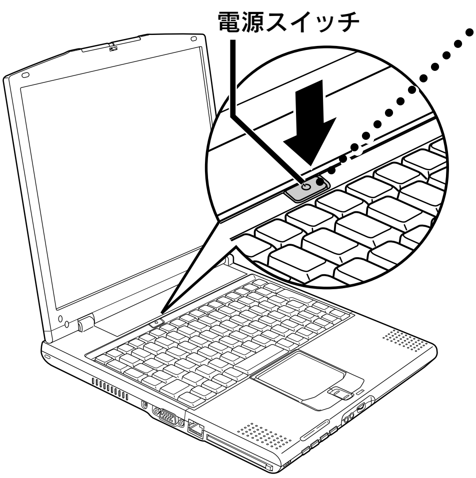


5 **メモリのコネクタに差し込まれていない部分を「カチッ」と音がするまで下に押し込みます。**



6 **増設用メモリモジュールのカバーを取り付け、ネジで固定します。**

7 **バッテリパックを装着、またはACアダプタを接続します。**



8 **電源をONにします。**

9 **Deleteキーを押します。**

BIOSセットアッププログラムが表示されます。

10 **【Auto Configuration with Optimal Settings】を選択して、Enterキーを押します。**

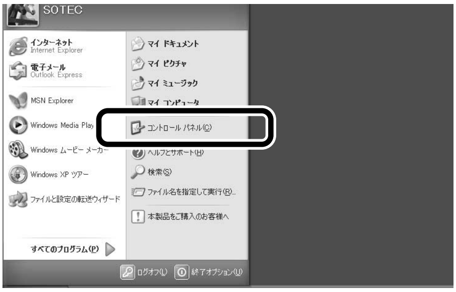
BIOSの設定を初期設定に戻すメッセージが表示されます。

11 **Yキーを押してから、Enterキーを押します。**

BIOSの設定が初期状態に戻り、Windowsが再起動されます。

増やしたメモリを確認する

電源をONにして、メモリが増えているか確認しましょう。









1 **電源をONにします。**

2 **[スタート]ボタン→[コントロールパネル]を選択します。**

【コントロールパネル】ウィンドウが表示されます。

3 **[パフォーマンスとメンテナンス]を選択します。**

【パフォーマンスとメンテナンス】ウィンドウが表示されます。

4 **[システム]を選択します。**

【システムのプロパティ】ダイアログが表示されます。

5 **ここに表示されている数字を確認します。**

チェック

・表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合は、メモリが正しく取り付けられているか、このパソコンで使えるメモリを取り付けたかをご確認ください。
・本製品のメモリは、自動的にビデオメモリに割り当てられます。
そのため、実際に取り付けたメモリ容量より少なく表示されます。

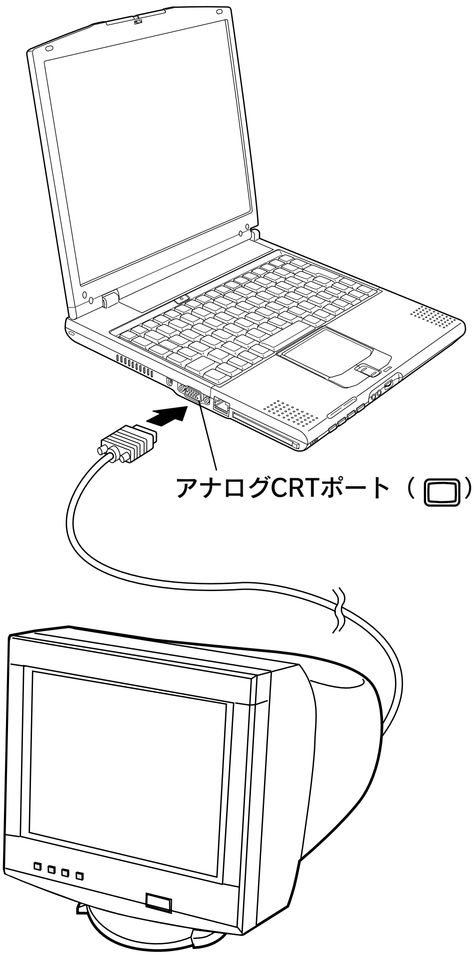
7 外部ディスプレイを接続する

本機には、外部ディスプレイを接続するためのコネクタが装備されています。

1 **本機の電源をOFFにします。**

チェック

・機器の接続の前に、本機の電源は必ずOFFにしてください。
・レジュームや休止状態といった省電力機能が働いている状態では接続しないでください。省電力機能の状態の場合は、再度電源をONにし、[コンピュータの電源を切る]から「電源を切る」を選択しパソコンの電源をOFFにしてください。(☞ 26ページ)



2 **本機左側面にあるアナログCRTポート( )に、外部ディスプレイのケーブルを接続します。**

チェック

・本機の電源をONにしてから、外部ディスプレイの電源をONにしてください。
・外部ディスプレイを接続した場合Windowsのコントロールパネルの[画面]で、「ディスプレイの種類」の設定変更が必要なときがあります。
・本体ディスプレイと外部ディスプレイを同時表示する場合、接続する外部ディスプレイは、設定したデスクトップ領域(解像度)をサポートするものを使用してください。

メモ

Fn+F5キーを1回押すごとに、本体ディスプレイのみ→外部ディスプレイのみ→両方同時の順に切り替わります。

付　録

1 BIOSを設定する

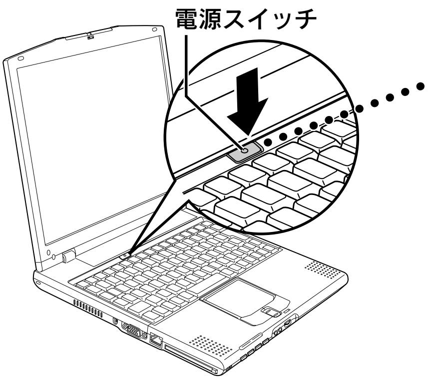
ここではBIOSの概要と、BIOSを設定するための「BIOSセットアッププログラム」の操作方法について説明します。

BIOSとは

"BIOS"とは「Basic Input Output System」の略称で、具体的にパソコンを動作させるためのプログラムです。
このBIOSの設定を正しく行うことで、パソコンの性能を正しく引き出すことができます。
本機ではあらかじめ、最適の状態でBIOSが設定されています。ただし、本機の拡張などを行った際には、拡張する機器に合わせてBIOSの設定を変更する必要があります。

チェック
BIOSの設定は複雑で、誤った設定をしてしまうと、本機が正常に動かなくなる恐れがあります。特に理由もなくBIOSの設定を変更しないでください。
誤った設定により本機が正しく動作しなくなった場合には、BIOSセットアップ画面で[Auto Configuration with Optimal Settings]を選択します。BIOSの設定を初期設定に戻すメッセージが表示されるので[Y]キーを押してから[Enter]キーを押してください。BIOSの設定が初期状態に戻り、Windowsが再起動されます。

BIOSセットアッププログラムの起動方法



1 本機の電源がOFFであることを確認した後、本機の電源スイッチを押して、電源をONにします。



2 "SOTEC"のロゴが入った画面が表示されたら、[Delete]キーを押します。

しばらくすると、セットアッププログラムの起動画面が表示されます。

参照 BIOSの詳しい操作方法についてはWindowsのデスクトップ画面から[スタート]ボタン→[必ずお読みください]→[BIOSマニュアル]をご参照ください。

●項目の選択・設定の方法

BIOSセットアッププログラムは、次のキーを使って操作します。

- メインメニューの項目を左右に移動するには　[←][→]キー
- 項目を上下に移動するには　[↑][↓]キー
- サブメニューへ移動するには　[Enter↵]キー
- ヘルプを見るには　[F1]キー
- 変更した設定を保存するには　[F10]キー
- サブメニュー・メニューを終了するには　[Esc]キー
- 設定値を変更するには　[PageUp][PageDown]キー

BIOSセットアッププログラムの終了

●設定した内容を保存して終了する

① [F10]キーを押すか、[Save Settings and Exit]にカーソルをあわせ[Enter↵]キーを押します。

② [Save current setting and exit(Y/N)?Y]とメッセージが表示されるので、[Y]キーを押してから[Enter↵]キーを押すと、変更した設定値を保存して終了します。

●設定した内容を保存せずに終了する

① [EXIT Without Saving]にカーソルをあわせて[Enter↵]キーを押します。

② [Quit Without Saving(Y/N)？N]とメッセージが表示されるので、[Y]キーを押してから[Enter↵]キーを押すと、変更した設定の保存を行わずに終了します。

BIOSセットアッププログラムのメニュー構成

BIOSセットアッププログラムは9種類のメニューから構成され、それぞれのメニューで設定できる内容は次のようになっています。

メニュー	内　容
Standard CMOS Features	内部のシステムクロック(時分秒)やカレンダー(年月日)などの設定をします。
Advanced BIOS Features	起動時の各種設定ができます。
Power Management Setup	省電力モードで本機を動作させるなど、電源管理の設定をします。
Auto-Detect Hard Disks	搭載されているIDEの情報を自動的に取得し表示します。
Change User Passwordp	ユーザのパスワードを設定します。 ※
Change Supervisor Password	システム管理者のパスワードを設定します。※
Auto Configuration with Optimal Settings	BIOSのすべての項目を、工場出荷状態の最適状態に設定します。
Save Settings and Exit	設定した内容を保存して終了する場合に選択します。
Exit Without Saving	保存せずに終了する場合に選択します。

※パスワードを忘れた場合修理サポートセンタに本機を預けていただきます。(有償)

2 廃棄について

パソコンの廃棄は、法律や各自治体の条例などにより、廃棄方法が定められています。本製品を廃棄する前にご参照ください。

本製品の廃棄について

本製品は、個人使用か事業使用で、廃棄方法が異なります。

事業系使用済みパソコンの回収・再資源化業務について

ソーテックは、2001年4月1日より事業系(法人ユーザー)の使用済みパソコンの回収及び再資源化業務を開始致しております。
本件は、2001年4月より施行された「資源の有効な利用の促進に関する法律(改正リサイクル法)」に基づき、3月28日に公布された省令「パーソナルコンピュータの製造等の事業を行う者の使用済みパソコンの自主回収及び再資源化」に準拠しております。
事業系使用済みパソコンにおける回収工程から、再生・再資源化及び処分工程までの全工程を遂行しております。回収・リサイクルの流れは次の通りです。

1 事業系のお客様から、リサイクル専用コールセンタにて受付
2.全国ネットワークの回収デポにて製品を回収
3.リサイクルセンタへ運搬
4.リサイクルセンタ及び指定業者にて再生・再資源化

なお、料金体系や周辺機器などの個別条件につきましても、下記の電話番号にてご案内しております。

リサイクル専用コールセンタ

TEL　03-5493-3756

9:00～17:00(月～金)
(弊社指定休業日はお休みさせていただきます)

この電話番号は、リサイクル専用です。
製品に関するサポートには対応しておりません。

個人でパソコンを所有している場合

廃棄方法に関しましては、お住まいの各自治体にお問い合せください(2002年9月現在)。

廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記録装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

従って、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合に、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ・ソフトで初期化(フォーマット)する
- ・リカバリCDを使い、工場出荷状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されただけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理が出来なくなっただけで、本来のデータは残っているという状態なのです。

従いまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このパソコンのハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されることがあります。

パソコンユーザが破棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要になります。消去するためには、専用のソフトウェアあるいはサービス(共に有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

不要になったバッテリパックの取り扱いについて

不要になったバッテリパックは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店にお持ち込みください。
返却される際は、ショートによる発煙・発火防止のため、端子にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

3 索 引

P

S

T

U

V

W

数字

MEMO

WinBook WLシリーズ　ユーザーズガイド
2002年10月初版

SOTEC

EN3149A